



前非行(2) ～非行感覚を中心に～

目次

特集●非行感覚と校則	深谷昌志	2
調査レポート●前非行(2)～非行感覚を中心に～	深谷昌志	9
本報告書の要約		10
第Ⅰ章 前非行とは		12
第Ⅱ章 非行的な行為をしているか		
1. タバコや万引き		13
2. 非行的な行為か		19
第Ⅲ章 非行への感覚		
1. 中学生として悪いことか		23
2. 非行化の始まり		29
第Ⅳ章 非行化の可能性		
1. 非行化しているか		34
2. 非行化している生徒		39
第Ⅴ章 指導の仕方をめぐって		
1. どんな指導をしてほしいか		45
2. 校則との関連		52
資料1 調査票見本		56
資料2 学年・性別集計表		66

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

特 集

非行感覚と校則

放送大学客員教授

深谷昌志



「前非行(2)～非行感覚を中心に～」と題された本レポートはのちにくわしく読んでいただくとして、本調査で目についたのは、校則との関連であった。

悪いといわれる行為の中で、タバコや飲酒が良くないのは、どの生徒でも知っている。

それだけに、具体的には校則違反を悪いと思うかどうかで非行化の程度が決まる。つまり多くの生徒たちは校則を守っている生徒は非行化していない。守らないのは非行化の始まりという見方をしていた。そこであらためて校則のあり方が問題になる。

服装の乱れは非行の始まり

まず、表1に目を通してほしい。これは「モノグラフ・中学生の世界」vol.29（生徒規則）で中学教師に生徒規則についての意識を尋ねた調査結果の一部だが、表中の数値は非行化傾向のある生徒のヘアスタイルを示している。

たしかに、髪を染めていたり、脱色をしている、あるいは、そりを入れている中学生を見れば、非行化していると思う。それと同じように、丈の長いスカートや太いズボンなどの服装も非行と無縁であるまい。

こうした見方を延長していくと、髪型や服装の乱れは非行に連なる。そして、学校が生徒の非行化を防ぐ使命を果たさねばならない

としたら、服装や持ち物の乱れを放置するわけにいかない、が結論となる。

したがって、図1のように、「パーマはいけない」や、「染めや脱色はいけない」「そりを入れてはいけない」などの指導は必要だし、そして、実際に、そうした指導をしていると多くの教師は答えている。図に関する限りでは、多くのおとなたちも学校のこうした指導を支持すると考えられよう。そして、生徒規則の大半が図と同じような内容のものであれば、校則をめぐっての論議はおこってこないのでないか。

実をいうと、図1で紹介した調査は、モノグラフの中でも、研究同人をしている中学の先生たちと話し合いを重ねて実施したもので

表1 非行傾向にある生徒の髪型（中学教師）

(%)

順位	男 子		女 子	
1位	そりを入れている	83.4	染め、脱色	75.1
2位	染め、脱色	76.8	長めの髪にパーマ	42.3
3位	リーゼント風	53.3	長い髪	28.4
4位	パンチパーマ	43.6	リボン	25.7
5位	整髪料	34.5	短い髪にパーマ	25.3
6位	長めの髪にパーマ	22.6	整髪料	21.9
7位	短い髪にパーマ	9.5	ポニーテール	9.5
8位	長い髪	7.2	パンチパーマ	2.5

あった。そのなかの何人かは、この10年来、さまざまな調査を重ねてきた研究仲間で、気心を知っている間柄である。それにもかかわらず、生徒規則をめぐっての話し合いでは、調査票作成の過程で何度も気まずい雰囲気になった。

というのは、「スニーカーのかかとをつぶしてはく」「ペちゃんこのかばんで登校する」「休み時間にガムをかむ」など、決して望ましい行動ではないが、かといって、きびしく取り締まる対象といいにくい対象について、先生たちは予想以上に強硬な意見を述べた。

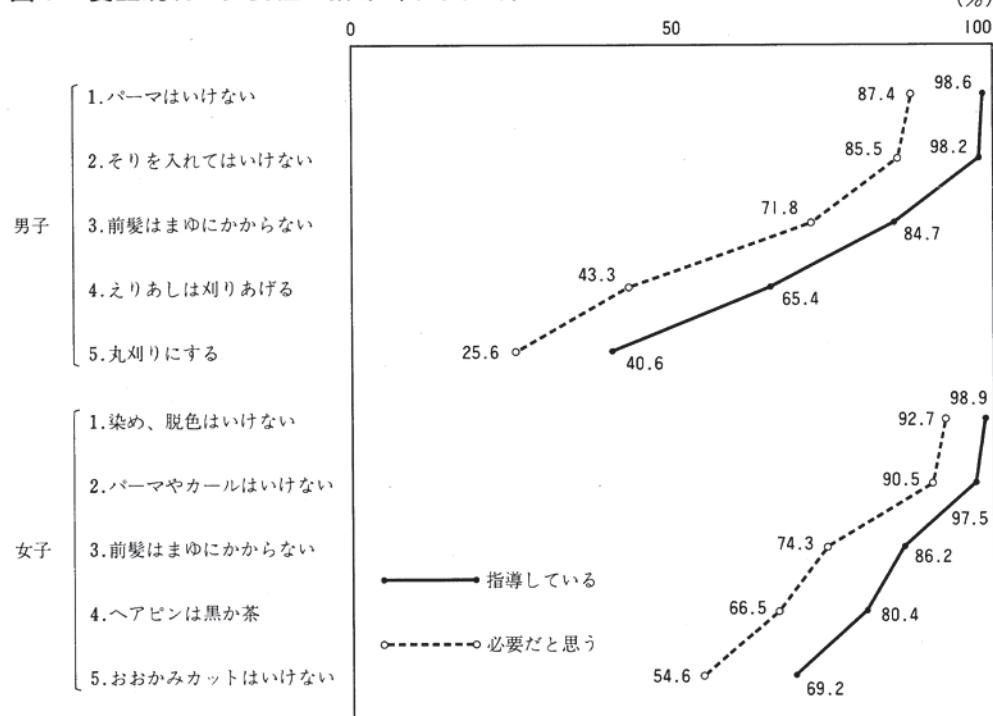
「そういうのを放っておくから、非行へ走る。芽は小さいうちにつまねばならない」と

いうのが先生たちの考え方で、「自分たちも、嫌がられるのを知りながら、こまかに注意を与えたくはないが、非行化を防ぐためにしなければならないと思う」とも語っていた。そして、筆者に向かって、「先生は外部にいるから、傍観者のようなことをいうので、現場で2週間も暮らしていれば、私と同じように考えるようになりますよ」という。

生徒なりに判断をしている

もちろん、筆者の立場が傍観者なのはたしかなのである。そして、こうした第三者の見方からすると、教師たちにもう少し柔軟な対応を望みたいが、そういうことをいうから

図1 髮型規制の必要性と指導（中学教師）



傍観者という批判が教師サイドからあがってくるのであろう。

つきつめでいうと、校則をめぐる問題は、教師たちの考えている非行化防止のガイドラインが親や生徒たちのそれとずれているところから生じるのであろう。

表2は、校則についての生徒たちの反応をまとめた「モノグラフ・中学生の世界」vol.24（「規範感覚」の崩れをめぐって）で紹介したものだが、ここでは校則を「当然必要だ」「必要とは思わないが、一応守るべきだ」「守らなくてもよい」「そうした規則はなくすべきだ」の4段階に分けて尋ねたもので、表中には、調査した45項目から、「なくすべきだ」「当然のきまり」「つまらないと思う。一応守る」のそれぞれ6項目を拾い出している。

こうしてみると、生徒たちも「髪を染める」や「パーマをかける」などに関する規則は必要だと思っているのがわかる。そして、規則をなくすべきだと考えているのは「絵入りのしたじきの禁止」や「雨傘は黒か紺」など、生徒たちがそう思うのも当然という項目が多い。

したがって、生徒たちもそれなりの基準を持って校則を考えているのがわかる。そうした意味では、教師と生徒との間にそれほどのギャップが認められないようにも考えられる。

しかし、表2を学年別に集計しながらみると、以下のようになる。

○髪を染めてはいけない

中1=72%、中2=66%、中3=57%。

○パーマをかけてはいけない

中1=64%、中2=62%、中3=45%。

○かばんは指定されたものを使う

中1=24%、中2=18%、中3=14%。

つまり、中1のうちには、きまりのかなりの

部分を必要だと思い、きまりを守ろうとしている。しかし学年が上がるにつれて、そうしたきまりに批判的になる。見方によれば、生徒たちがそれだけ批判の目を育て、成長したことになるのであろうが、そうはいっても、やはり校則を守ろうという気持ちが薄れるのは否定しがたい。

なお、生徒たちは、「髪型の乱れは非行に通ずる」という意見について、「とても」の24%を含めて、78%の者が「そう思う」と答えている。したがって、基本的には教師たちと同じようなコンセプトをふまえているのがわかる。

そうした反面、「先生はこまかい注意を与えるすぎる」についても、「とても」の33%を含めて、81%が「その通り」と反応している。

生徒たちを信頼して

考えてみれば、規則を守らせようとする教師と、守らなければならない生徒との間に、ある程度の立場の開きが生じるのは避けられないよう思う。それにしても、今までふれたデータは、教師と生徒との溝が予想しているより狭いことを示している。

したがって、多くの生徒たちの気持ちを要約すると、「先生たちのことはわかるし、もっともだと思うことが多い。しかし、あまりにこまかることをくどくどいいすぎる。もう少し、自分たちを信頼してほしい」となる。

こうした論議をするとき、社会的な背景を異にする諸外国を例にして校則のあり方を考えるのは、土壌がちがっているだけに的はずれの感じがする。しかし、見方をかえると、学校をとりまく文化がことなるので、日本では考えられない新鮮な発想をしている場合が

表2 学校のきまりについて（中学生）

(%)

項目	尺度	当然必要だ	一応守るべき	(小計)守る	守らなくてもよい	なくすべきだ	(小計)守らない
① 絵入りのしたじき禁止		2.2	7.6	9.8	23.6	66.6	90.2
② 校門の国旗に一礼		4.1	10.4	14.5	27.2	58.3	85.5
③ 雨傘は黒か紺	なくすべきだ	4.7	16.0	20.7	26.2	53.1	79.3
④ オーバー、マフラーは禁止		6.2	14.2	20.4	21.2	58.4	79.6
⑤ 廊下は右側通行		6.3	20.9	27.2	38.1	34.7	72.8
⑥ 男子の丸刈り		7.3	30.8	38.1	18.3	43.6	61.9
⑭ まっすぐ帰り、より道をするな		19.4	31.5	50.9	28.5	20.6	49.1
⑮ 指定されたかばん以外は使わない		19.9	29.7	49.6	23.6	26.8	50.4
⑯ ドライヤーでウェーブをつけない	一応は守ろう	20.1	26.3	46.4	26.1	27.5	53.6
⑰ かばんをつぶすな		20.5	26.8	47.3	25.5	27.2	52.7
⑱ 男子のズボンのすそ幅		20.6	35.2	55.8	23.5	20.7	44.2
⑲ 通学かばんにワッペンをはらない		22.7	29.8	52.5	26.0	21.5	47.5
⑳ 男女とも下着をつける		39.3	27.6	66.9	17.2	15.9	33.1
㉑ ワイシャツのすそは入れる		40.0	34.8	74.8	13.1	12.1	25.2
㉒ 職員室は一礼して	当然のきまり	45.0	31.9	76.9	12.7	10.4	23.1
㉓ 体操服は決められたもの		46.3	33.5	79.8	10.6	9.6	20.2
㉔ パーマをかけてはいけない		60.3	19.8	80.1	8.8	11.1	19.9
㉕ 髪を染めてはいけない		67.1	18.7	85.8	5.4	8.8	14.2

少なくない。

そうした意味をふまえて、ここではワシントン州オリンピア市の2つの学校の児童規則の一部を紹介してみよう。

資料1のような感じで10項目が並んでいる。そして、この1～3を見るだけでも、規則でとりあげられる項目が日米との間に差が少ないのでわかる。それと同時に、アメリカの規則になんとなくソフトな印象を受ける。3の「建物の中では歩きましょう」の原文は、“Please walk in the building”である。その他もpleaseやlet usなどで文章が始まっている。

さらに、この学校では児童向けの規則の他に、**資料2**のように親向けの規則を作成している。

そして、それぞれレベル1～3に相当するのがどういう項目なのかについて、くわしい説明が付されている。

いわば、処罰について、きちんとした規定がオープンになっているわけで、こうした扱いはその他の学校でもみうけられる場合が多い。全体として、アメリカの校則は項目が少ないとその校則に違反した場合の罰規定が明記されている傾向が一般的である。

さらに、別の学校では、**資料3**のようなきまりが設けられていた。

このきまりは、いずれも「私は権利を持っています」(I have a right)で、文章が始まっている。

実をいうと、この文を見るまで、きまりは義務、つまり「しなければならない」ものと考えていた。しかし、考えてみると、まず一人ひとりの権利があり、そのうえに権利を守るために、義務が生じるのであろう。そうだとすると、「しなければならない」という規定

はさかさまのように思われてくる。

そして、アメリカの規定は権利を中心に組み立てられているので、他人に迷惑のかからない服装や持ち物などの規定が少ないのが一般的である。

アメリカのモデルがベストというつもりはないが、生徒たちを信頼し、権利を認めるという立場で校則を考える態度も、ひとつの発想のスタイルとなろう。

いずれにせよ、形式的なスタイルを決め、それを守らせるだけでは、形式にしたがってはいつも、規則を守ろうとする心構えは形成されにくい。こうした状況は非行的な行為はしていないが、なんとなく非行についての構えのしっかりとしていない生徒たちの姿と共通する部分があるように思われてならない。

資料1

パイオニア小学校のきまり

1. トイレや机、壁をきれいにしておきましょう。清潔な学校を誇りにしたいと思います。
2. 遊具を友だちと仲良く使いましょう。友だちも遊ぶ権利を持っているのです。遊具を友だちに貸してあげる人は友だちを作れますし、友だちもそうしてくれるでしょう。
3. 建物の中では歩きましょう。走るのはとても危険です。

資料2

きまりを守らせる手続き（要約）

きまりの守らせ方には3つのレベルがあります。レベル1は担任が処理しますが、レベル2は同じ学年などの複数の先生が問題解決にあたります。そして、レベル3になると校長が決定をくだします。

レベル1=ほとんどの問題はこのレベルで処理されます。具体的には、①その場で注意する、②個人的に注意する、③休み時間などに特別の時間をとる、④親と話し合うなどのステップが考えられます。

レベル2=レベル1でうまくいかないと、同じ学年の先生たちが協議し、①校長や②親と相談する他、ときには登校せずに自宅で監督してもらう場合もあります。

レベル3=レベル3になると、校長が警察と相談して問題解決にあたることもあります。

資料3

ブライアン小学校のきまり

1. 私は、この学校で、しあわせに過ごす権利を持っています。このことは、誰も私を笑ったり、私を傷つけたりしてはいけないことを意味しています。

2. 私はこの学校で、自分自身でいられる権利を持っています。これは、私の色が白いか黒いか、あるいは、ふとっているかやせているか、そして、背が高いか低いか、男か女かによって、不公平な扱いを受けないことを意味しています。

3. 私は学校で安全でいる権利を持っています。これは、誰も私をぶつたり、けったり、押したり、つねったり、傷つけたりしないことを意味しています。

4. 私は学校で話を聞いたり、聞いてもらったりする権利を持っています。これは教室で、誰もはやしたてたり、ののしったり、きやっといってさわいだりしないことを意味しています。

5. 私は学校で自分自身のことを学ぶ権利を持っています。これは、私が誰からもさまたげられず、もちろん罰を受けることなしに、自分の意見や感じ方を自由に話してよいことを意味しています。

調査レポート

前非行(2)

～非行感覚を中心に～

放送大学客員教授

深谷昌志

本報告書の要約



① 非行的な行為をしているか

「万引き」や「タバコを吸う」など、非行的な行為をしている生徒は1割以下にすぎない。(P. 15 図1)

② 非行的な行為か

「マニキュアをぬる」や「ドライヤーを使う」はともかく、「髪にそりを入れる」や、「バイクに乗る」は非行だと思う。(P. 20 図4)

③ 中学生として悪いことか

「酒を飲む」や「タバコを吸う」はいけないが、「学校へマンガを持っていく」「マニキュアをぬる」は、それほど悪くはない。(P. 24 図7)

④ 悪いことの因子

中学生としてするのが悪いことは、法にふれる行為と校則違反、そして道徳に反する行為だという。(P. 27 表2)

⑤ 非行化の始まり

制服のスカートや上着などに手を加えるのが非行の始まりだという。(P. 30 図10)

⑥ 非行化の可能性

非行化しそうと思っている生徒は「ひょっとしたら」の10.9%を含めて、16.3%である。
(P. 35 表4)

⑦ 先生に見つからなければ…

先生に見つからなければリップクリームくらいはつけるが、それ以上の悪いことはしない。(P. 41 図17)

⑧ 指導の仕方

担任に呼ばれて注意される形が多い。
(P. 46 表10)

【調査概要】

対象●大都市・地方都市・山村部の中学校
15校の1～3年生2,272名
期間●1989年5月～6月
方法●学校通しの質問紙調査

サンプル構成

(人)

	男 子	女 子	計
中 1	330	441	771
中 2	351	332	683
中 3	444	374	818
計	1,125	1,147	2,272

まとめ

生徒たちは、非行についてそれなりに健全な感覚を持っているように思える。法にふれるような行為はしてはいけないし、するつもりもないと答えている生徒が多い。

そして、校則を守るかどうかで非行化の程度が決まるとして、生徒たちは思っている。校則が非行化の目安という見方である。それだけに、もう少し生徒の自主性を認める形で校則を作ってはどうかと思った。また、生徒たちは非行化しないようにがんばっているようなので、生徒たちのそうした気持ちも大事にしたいという印象も抱いた。

第Ⅰ章 前非行とは



このところ、中学生の非行が変質してきたような印象を受ける。校内暴力やツッパリ、そしてバイクなど、アグレッシブな非行は少なくなった感じもするが、そうかといって、心身ともに健やかな子が育っているとはいにくい。

ちょっと目を離すと、タガがはずれたようになじ度がなくなる。雨が降ってくると、他人の傘を持っていってしまう。あるいは、2人

乗りで自転車を走らせる。そして、コンパの後にもりあがってビールを飲む……。いずれも非行とよぶには軽度だが、といって、健全でもない。いわば前非行の傾向が広がっているように見える。

つまり、悪質な非行は減少しているが、前非行の傾向は拡大している。今回のレポートでとりあげてみたいのは、そうした非行感覚の問題である。

第II章 非行的な行為をしているか



1. タバコや万引き

まず、生徒たちはいわゆる非行的な行為をどれくらいしているのであろうか。もちろん、「非行的な行為」といってもさまざまなものが含まれているが、非行化のレベルの弱いものから強いものまで、17の項目について、「したことがあるか」を尋ねてみた。

結果は図1(表1)の通りで、生徒たちの反応は、以下のように3つに分かれている。

①「していない」

(したことのある生徒が1割以下)

1. 部分パーマをかける (1.5%)
2. 他人の自転車に黙って乗る (5.2%)
3. 万引きをする (5.2%)
4. バイクの無免許運転をする (6.4%)

5. 他人の傘を黙って使う (5.3%)

6. タバコを吸う (8.5%)

7. 深夜、盛り場をふらつく (7.9%)

②「あまりしていない」

(したことのある生徒が1~3割)

8. 用もないのに保健室にいる (19.2%)

9. かばんなどにシールをはる (19.2%)

10. うすいマニキュアをぬる (24.8%)

11. きまりより太いズボンをはく (12.7%)

12. 家で酒を飲む (27.0%)

③「わりとしている」

(したことのある生徒が4割以上)

13. 学校へマンガを持っていく (40.8%)

14. ゲームセンターなどに行く (49.0%)

15. 靴のかかとをつぶしてはく (52.5%)
16. 教科書を学校へ置いていく (53.8%)
17. リップクリームをつける (49.7%)

(「1回以上したことのある」割合)

こうしてみると、「学校へマンガを持っていく」や「靴のかかとをつぶしてはく」など、気になる行為をしている生徒は少なくないが、万引きやタバコ、そしてバイクといった非行的な行為をしている生徒は少ない。そして、マンガや靴のかかとにしても、半数前後の者は「していない」と答えているのであるから、生徒たちが非行的な行為をあまりしていないといっているのを信じてよいように思う。

そして、非行的な行為をしている割合を学年別に集計した図2でも、中1から中3になるにつれて、非行的な行為をしている生徒はそれほど増加していない。

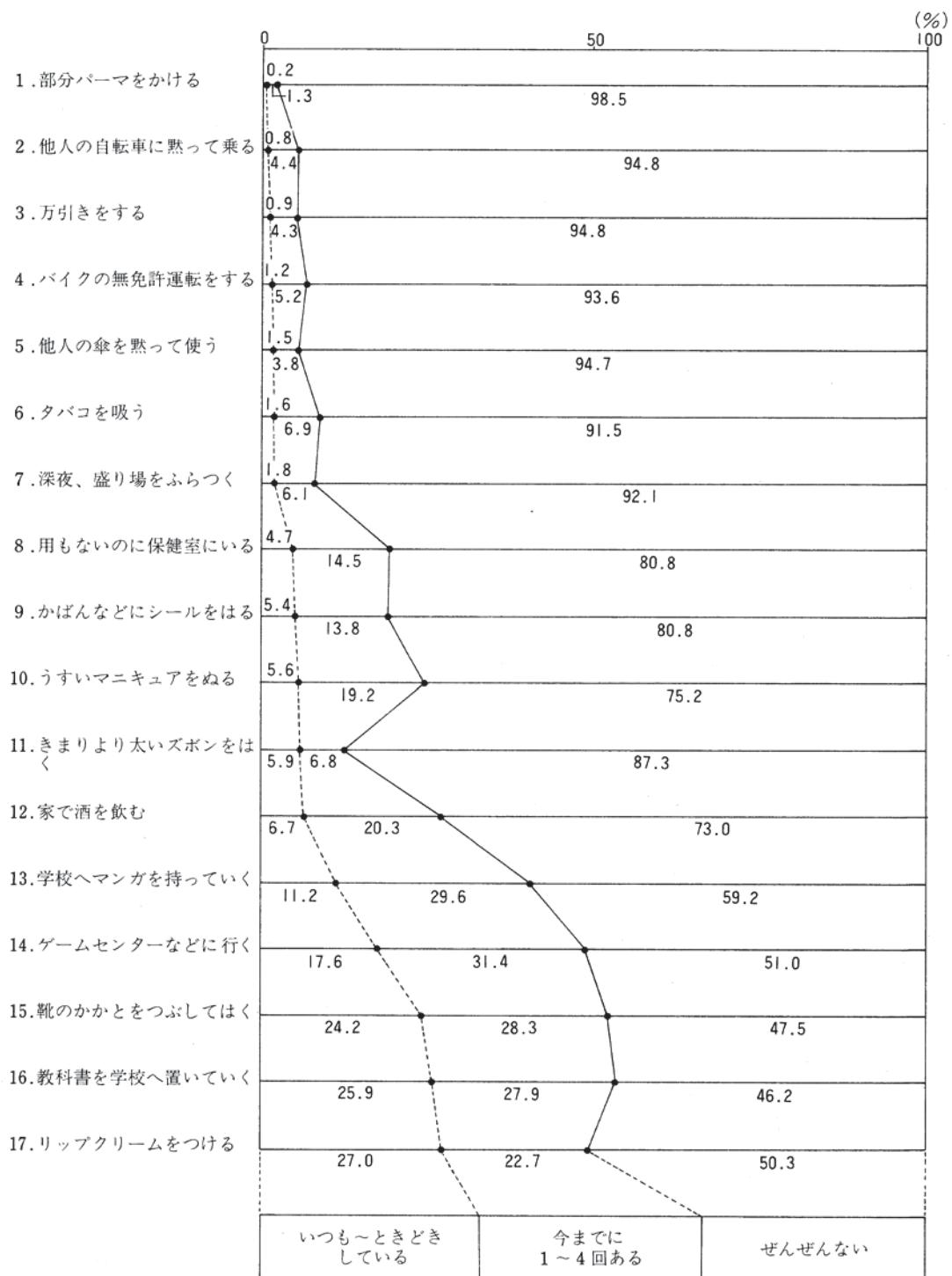
もちろん、こうした調査で「悪いことをし

ているか」と尋ねられ、すべての生徒が正直に話すとは思えない。したがって、図1のデータをある程度割引いて考える必要があろう。つまり、このデータよりはもう少し、非行的な行為をしている割合が高いと想像されるが、それでも全体として、生徒たちが非行的な行為をあまりしていないと思っているのはたしかなように考えられる。

なお図3に、非行的な行為と非行化についての自己評価とのクロス集計結果を示した。非行への自己評価とは、自分を「非行化しそう」と感じているかどうかを尋ねたもので、この項目はのちでくわしくふれることにしたいが、図3に限っていえば、「非行化しない」と思っている生徒は、非行的な行為をしていないのに対し、「非行化するかもしれない」と感じている生徒が非行的な行為をしている割合が高い。

(図1) (非行的な行為)しているか

→していない

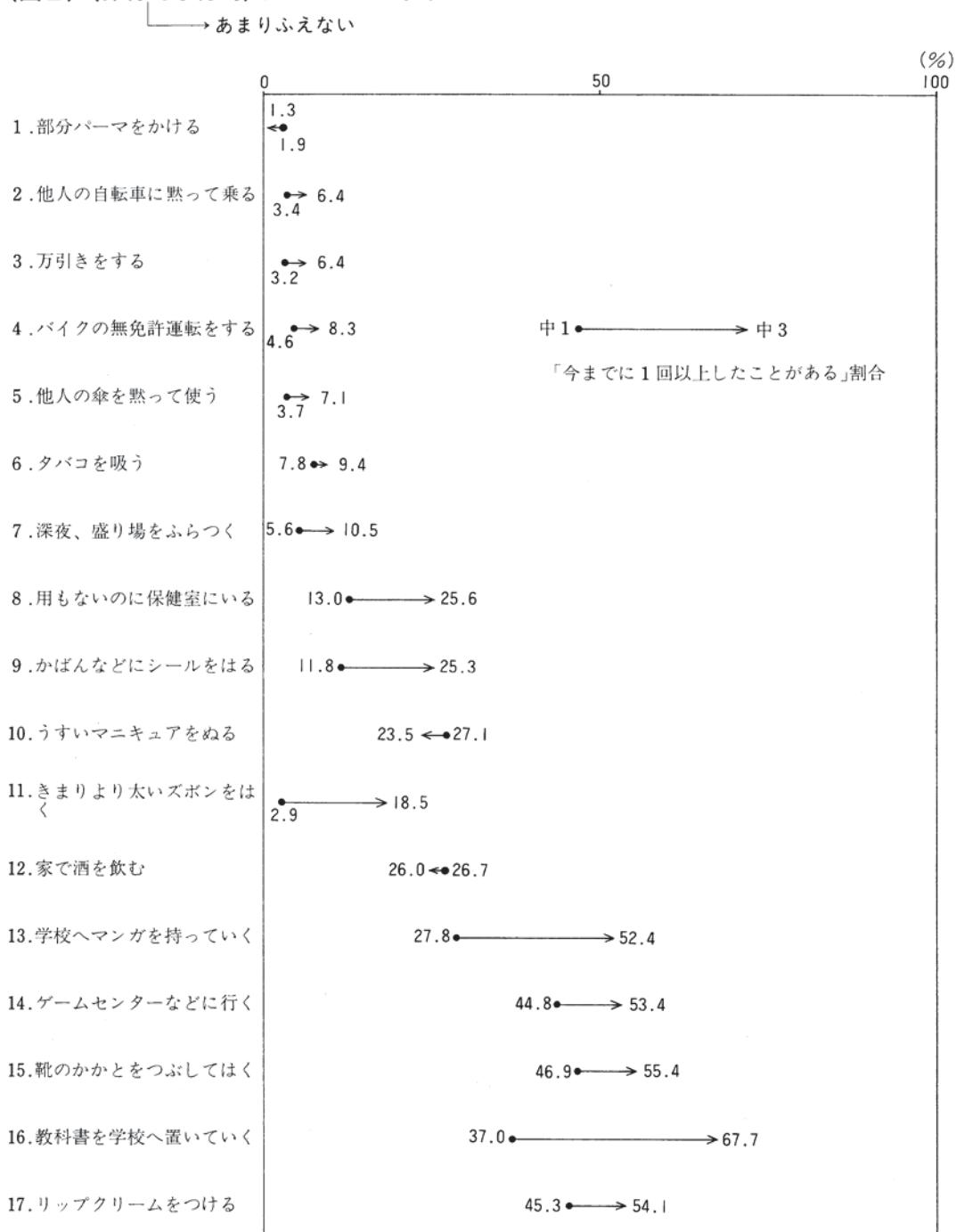


(表1) (非行的な行為)しているか

→ リップクリームくらいはつける

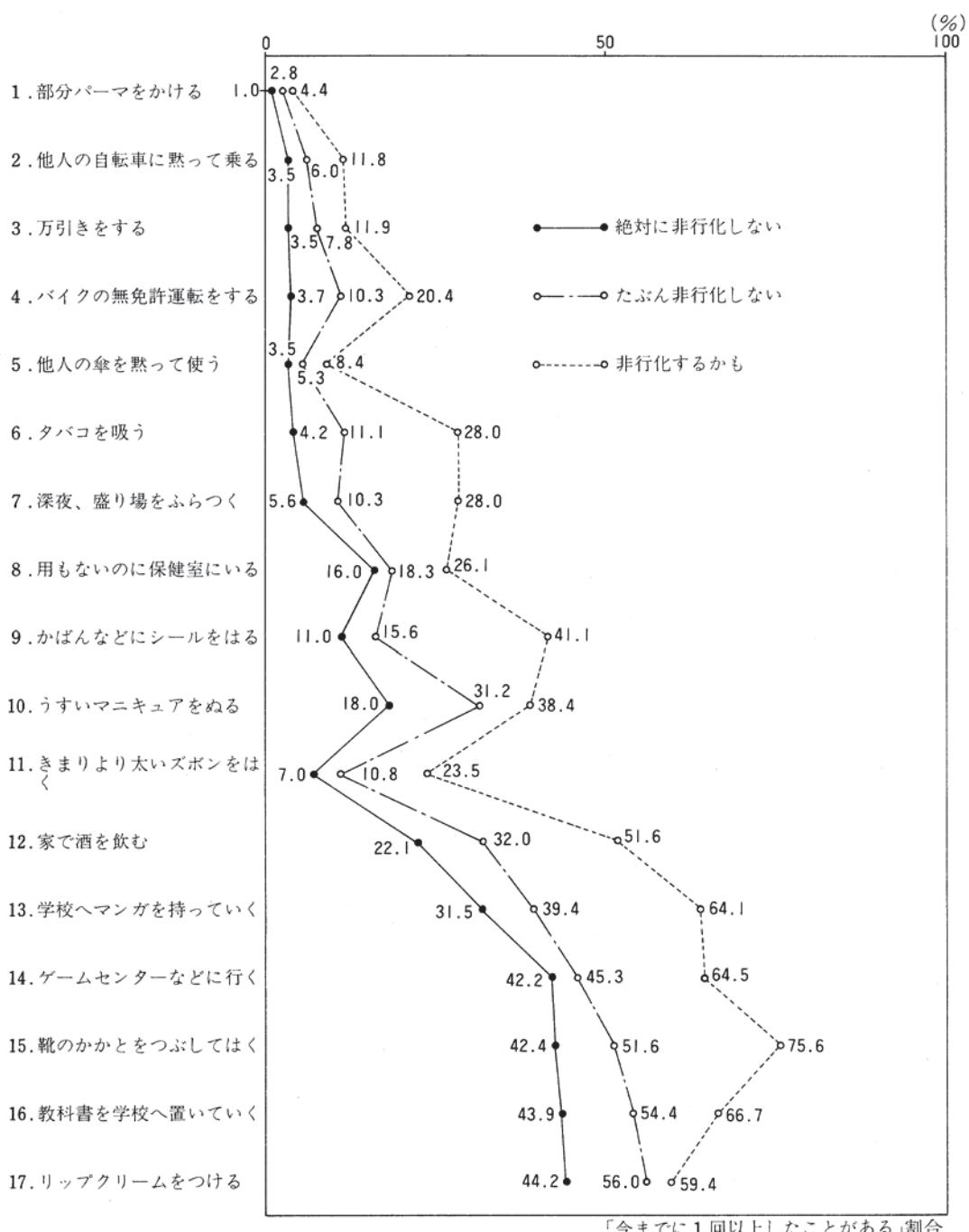
	いつも している	ときどき している	今までに 3~4回ある	今までに 1~2回ある	(%) ぜんぜん ない
1. 教科書を学校へ置いていく	11.3	14.6	7.4	20.5	46.2
2. 靴のかかとをつぶしてはく	5.1	19.1	7.9	20.4	47.5
3. リップクリームをつける	2.8	24.2	9.8	12.9	50.3
4. かばんなどにシールをはる	2.7	2.7	2.4	11.4	80.8
5. きまりより太いズボンをはく	2.3	3.6	2.4	4.4	87.3
6. ゲームセンターなどに行く	1.8	15.8	11.2	20.2	51.0
7. 用もないのに保健室にいる	1.1	3.6	3.5	11.0	80.8
8. 家で酒を飲む	0.9	5.8	6.6	13.7	73.0
9. 学校へマンガを持っていく	0.6	10.6	9.2	20.4	59.2
10. うすいマニキュアをぬる	0.5	5.1	6.8	12.4	75.2
11. タバコを吸う	0.5	1.1	1.8	5.1	91.5
12. 他人の自転車に黙って乗る	0.5	0.3	0.9	3.5	94.8
13. 他人の傘を黙って使う	0.4	1.1	0.6	3.2	94.7
14. バイクの無免許運転をする	0.4	0.8	1.3	3.9	93.6
15. 深夜、盛り場をふらつく	0.3	1.5	1.4	4.7	92.1
16. 万引きをする	0.2	0.7	0.9	3.4	94.8
17. 部分バーマをかける	0.1	0.1	0.1	1.2	98.5

(図2) (非行的な行為)しているか×学年



(図3) (非行的な行為)しているか×非行化するか

→ 非行化しない子はまじめ



2. 非行的な行為か

このように、大半の生徒が非行的な行為を犯していないのはたしかなように見えるが、行為をしているかどうかはともあれ、それは生徒たちは、どのような行為をしているのを非行化と思っているのであろうか。

ここでは、「友だちがしているのを見たら、非行化していると思いますか」の形で質問してみた(図4)。「すごく」「かなり」を加え、「非行化している」と思っている生徒が7割を超える項目を非行的な行為と考えてみよう。

その結果によると、図中の15項目の内、非行化といえないのは以下の4項目に限られ、その他は非行化した行為だと生徒たちは感じている。

①「非行化とはいえない」

1. マニキュアをぬる (45.3%)
2. ドライヤーで髪型をきめる (35.1%)
3. ビリヤードの店へ出入りする (63.4%)
4. 太いズボン(ポンタン)をはく (65.1%)

②「非行化している」

5. パーマをかける (73.0%)
6. 授業中ぬけ出して、保健室へもぐりこむ (78.6%)
7. 学校の品物をこわす (72.6%)
8. 授業中、授業を妨げる (73.6%)
9. 髪にそりを入れる (74.9%)
10. 先生に乱暴な言葉をつかう (79.0%)
11. 夜、喫茶店でおしゃべりをしている (72.1%)
12. バイクのうしろに乗せてもらって乗りまわす (78.7%)
13. 他人の自転車の部品を盗む (87.5%)
14. 自分の家の中でならタバコを吸う (88.5%)
15. 万引きをする (93.0%)

(「すごく・かなり非行化している」割合)

このように生徒たちは、図中のような行為をするのは非行だと考えている。たしかにこれらの項目は「学校の品物をこわす」や「バイクに乗せてもらう」、そして「タバコを吸う」「太いズボン(ポンタン)をはく」など、非行の程度の強いもので、こうした行為を非行と思うのは健全な感覚であろう。

いずれにせよ、生徒たちはいわゆる非行的といわれる行為をするのを非行だと思うだけでなく、自分自身も、こうした行為をあまりしていないと答えている。

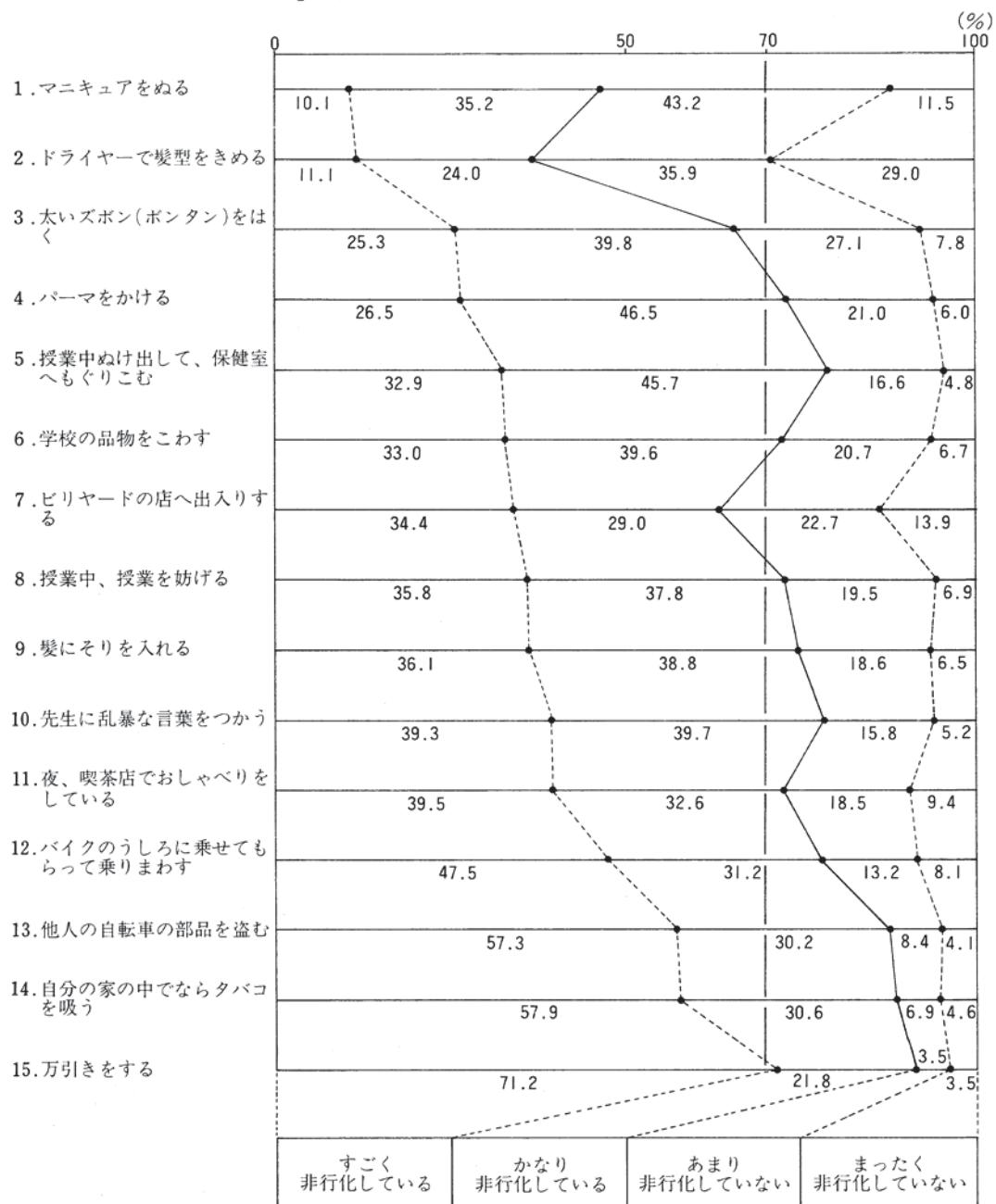
そうした限りでは、ほとんどの生徒が非行と無縁のようにも思えるが、それでも「朱に交われば赤くなる」のたとえの通り、自分自身はそう思っていないとも、つきあう仲間との関係で、非行に近づく場合もある。

そこで、友だちに誘われたらどうするかを尋ねてみた。図5のように、「バイクに乗る」や「パチンコに行く」「酒を飲む」「カニングをする」などは、友だちから誘われてもする気はないという。しかも学年が上がつても、友だちから誘われたらついていく生徒はそれほど多くなっていない(図6)。仲間に誘われたら「ゲームセンターに行く」生徒は、中1の33.8%から、中3は49.7%と増加しているが、友だちに誘われたからといって、万引きやカニングをする気はないというのが、生徒たちの標準的な反応のように見える。

このように、生徒たちは非行的な行為をあまりしていないし、友だちから誘われても非行的な行為へ走るつもりはない。その上、非行的な行為を非行と感じているのもたしかなので、全体としてみると、中学生たちはそれなりに健康新たんで、非行化していないような印象を受ける。

(図4) 非行化していると思うか

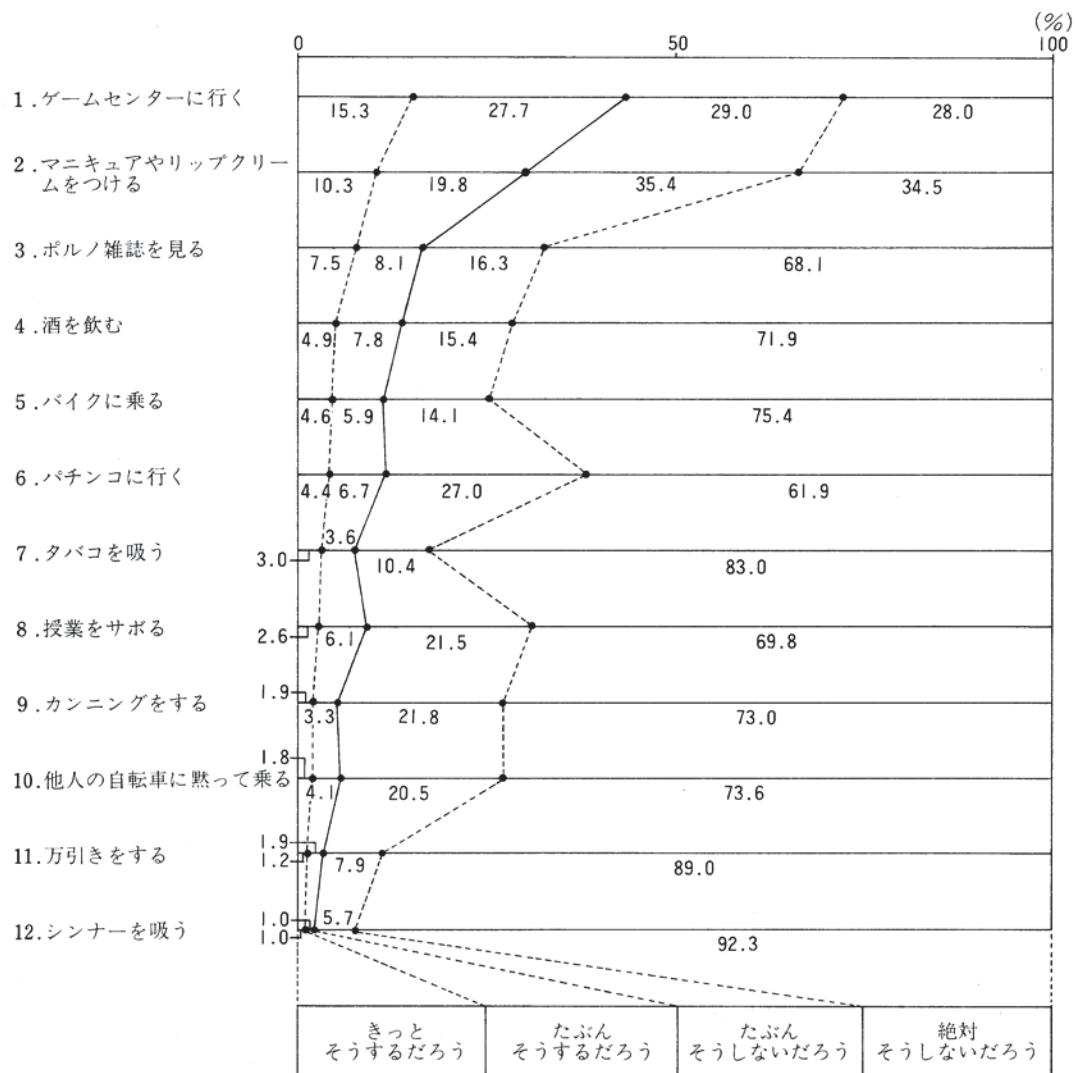
→「バイク」は非行化している



[設問] それでは、以下のようなことをしている友だちを見たら非行化していると思いませんか。

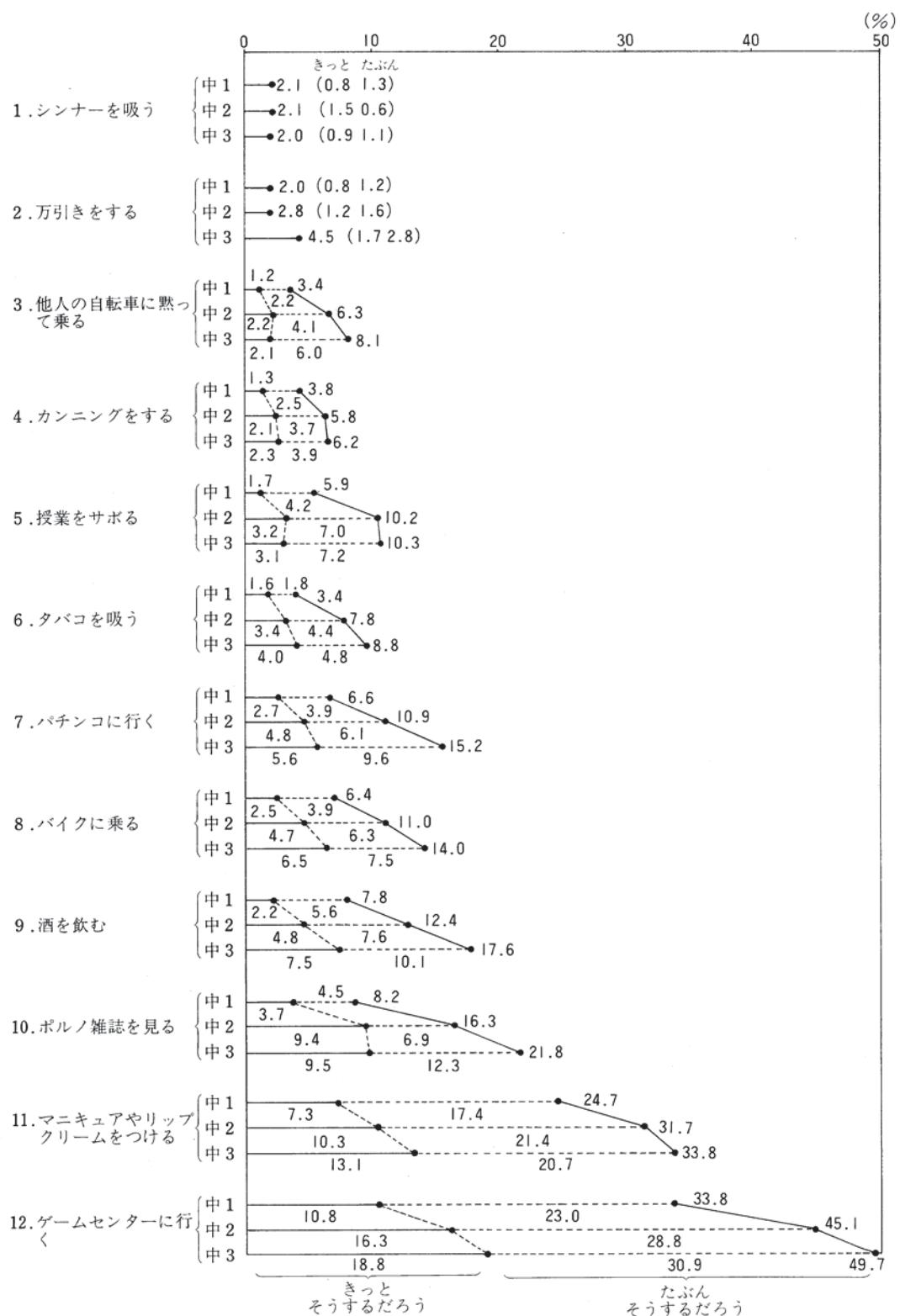
(図5) 親しい友だちから誘われたら

→誘われてもしない

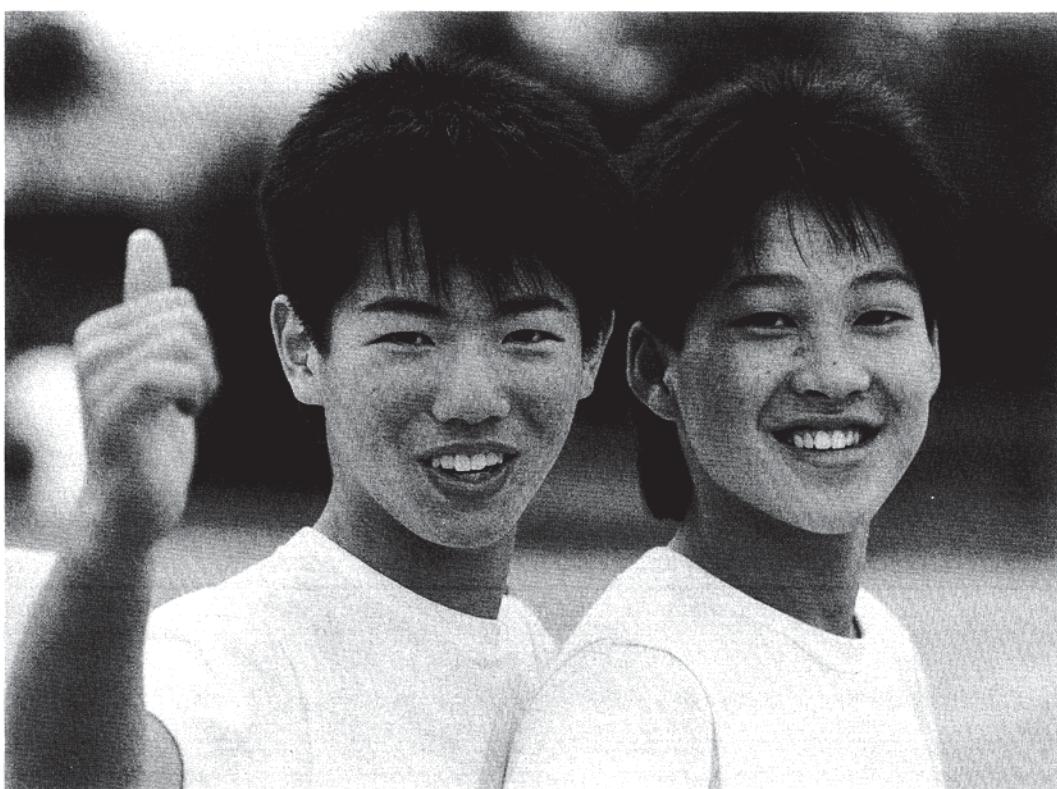


(図6) 親しい友だちから誘われたら×学年

→ゲームセンターには行くかも



第III章 非行への感覚



1. 中学生として悪いことか

これまで見てきたように、生徒たちはそれなりに非行に対して健全な感覚を持っているように思える。しかし、こまかくとらえ直してみると、非行的な行為といつてもさまざまなレベルがあり、アイテムによっては、生徒たちが非行と思っていない項目も認められた。

したがって、図1～4などから生徒が非行化していないと結論づけるのは早計なのかもしれない。

そこで、生徒たちの非行感覚をもう少しこまかく分析してみることにした。図7は、「かばんなどにシールをはる」や「家で酒を飲む」

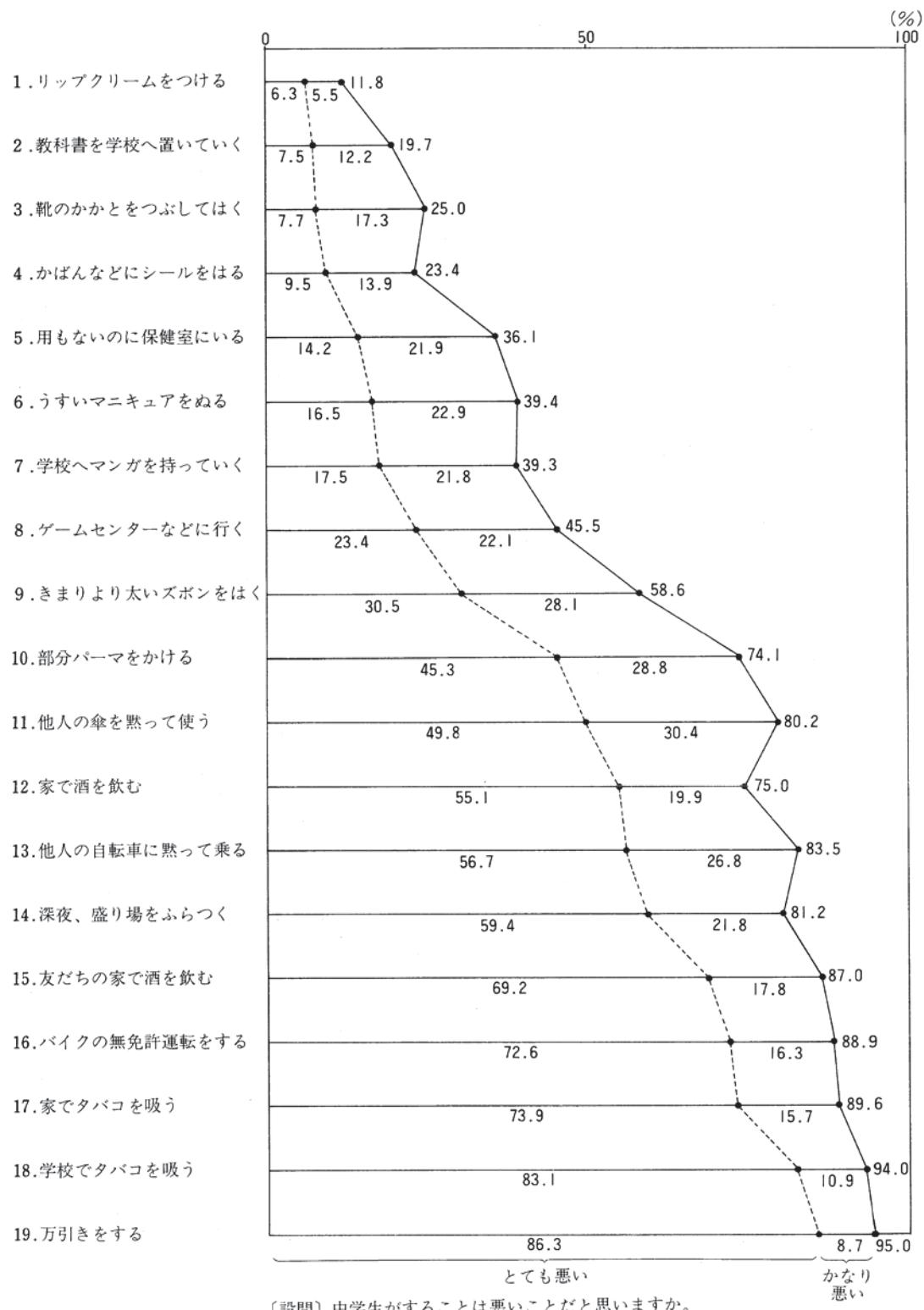
などの19の項目を提示して、そうしたことをする中学生がすることは悪いことだと思いますか」と尋ねた結果である。

こうした設問をするまでもなく、非行と呼ばれる行為の中には、万引きや無免許運転のように、おとなでもしてはいけないことと、酒やタバコがそうであるように、おとなに認められているが、未成年に禁止されているものとがある。

そこで、「中学生として」の条件をつけて、そうしたことを悪いと思うかを尋ねた。「かなり」に「とても」を加え、「悪い」と思っ

(図7) 悪いことか

→学校へマンガを持っていっていいのでは



〔設問〕 中学生がすることは悪いことだと思いますか。

ている割合をまとめてみると、以下のような数値となる。

①「あまり悪くない」

(悪いが4分の1以下)

1. リップクリームをつける (11.8%)
2. 教科書を学校へ置いていく (19.7%)
3. 靴のかかとをつぶしてはく (25.0%)
4. かばんなどにシールをはる (23.4%)

②「やや悪い」

(悪いが4分の1～2分の1)

5. 用もないのに保健室にいる (36.1%)
6. うすいマニキュアをぬる (39.4%)
7. 学校へマンガを持っていく (39.3%)
8. ゲームセンターなどに行く (45.5%)

③「悪いことだと思う」

(悪いが2分の1以上)

9. きまりより太いズボンをはく (58.6%)
10. 部分バーマをかける (74.1%)
11. 他人の傘を黙って使う (80.2%)
12. 家で酒を飲む (75.0%)
13. 他人の自転車に黙って乗る (83.5%)
14. 深夜、盛り場をふらつく (81.2%)
15. 友だちの家で酒を飲む (87.0%)
16. バイクの無免許運転をする (88.9%)
17. 家でタバコを吸う (89.6%)
18. 学校でタバコを吸う (94.0%)
19. 万引きをする (95.0%)

(「とても・かなり悪い」割合)

バイクに乗ったり、酒を飲んだりするのはよくないが、靴のかかとをつぶしてはいたり、かばんにシールをはったりするのは悪くないと思う。そしてマニキュアをぬったり、学校へマンガを持っていったりするの悪いとはいわないが、ほめられることでないというあたりが生徒たちの平均的な反応となる。

なお、悪いと思う気持ちの割合が学年が上がるにつれてどう変化するかを示すと、図8のようになる。ベクトルの向きから明らかのように、中1から中3になるにつれて悪いと思う割合がへる。

この図の中で興味をひくのは、「万引き」のように、するのが悪いことと思っている行

為は学年が上がっても、中1の89.7%から中3の85.4%へと悪い割合がほとんど変わらない（中1を100%として、95.2%）のに対し、「リップクリームをつける」のような、もともと悪くないと思っている項目は、中1の9.2%から中3の4.2%へと、悪いと思う割合が半減している。悪いことは学年を越えて悪いが、あまり悪くないと思っていることは学年が上がるにつれて、悪さが感じられなくなるのであろうか。

このように「中学生がするのは悪い」ことの中にも、さまざまなファクターがあると考えられるので、因子分析の技法で、悪いことを支える要因を分析してみた。

表2に数値を示したが、結果は以下の通りとなる。

I 軸 (46.1%)

- ↓
法にふれる行為
- | |
|-------------------------|
| 1. 学校でタバコを吸う (0.858) |
| 2. 友だちの家で酒を飲む (0.855) |
| 3. バイクの無免許運転をする (0.802) |

II 軸 (12.1%)

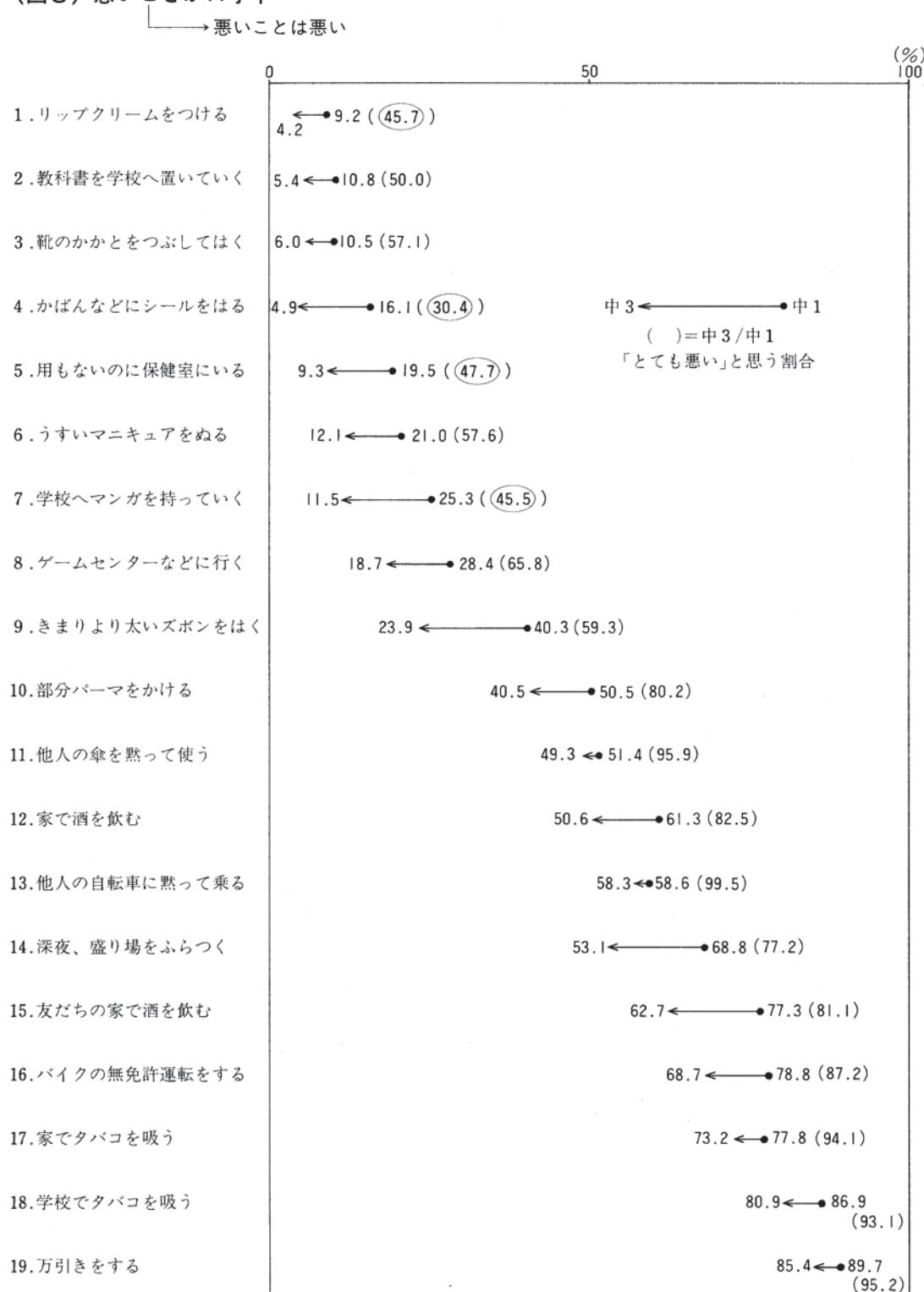
- ↓
校則（学校文化）違反
- | |
|-------------------------|
| 1. かばんなどにシールをはる (0.773) |
| 2. うすいマニキュアをぬる (0.710) |
| 3. 学校へマンガを持っていく (0.679) |

III 軸 (5.5%)

- ↓
道徳に反する行為
- | |
|-------------------------|
| 1. 他人の傘を黙って使う (0.755) |
| 2. 他人の自転車に黙って乗る (0.720) |

したがって生徒たちは、「してはいけないこと」として、まず「法にふれる行為」を考え、次いで「校則違反」を思い出し、そして「道徳に反する行為」がイメージにうかんでくるのであろう。その中では、因子寄与率からいうと、法にふれる行為が悪いことの代表となる。

(図8) 悪いことか×学年

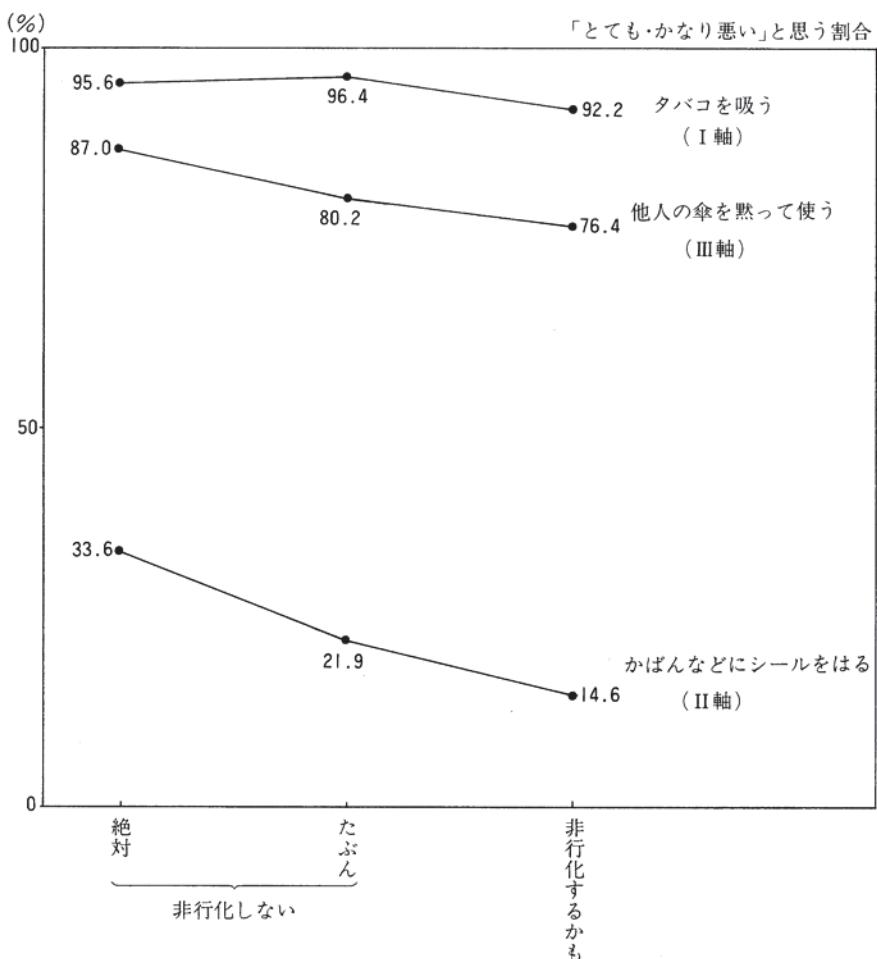


(表2)「悪いことか」の因子分析

	I 軸	II 軸	III 軸
1.教科書を学校へ置いていく	0.05876	0.67134	0.29507
2.靴のかかとをつぶしてはく	0.10799	0.65959	0.32710
3.リップクリームをつける	0.10698	0.67742	-0.17985
4.かばんなどにシールをはる	0.14421	0.77300	-0.08532
5.用もないのに保健室にいる	0.16433	0.60466	0.37609
6.学校へマンガを持っていく	0.23430	0.67926	0.19046
7.うすいマニキュアをぬる	0.32905	0.71000	-0.05270
8.他人の傘を黙って使う	0.34173	0.21620	0.75501
9.ゲームセンターなどに行く	0.36975	0.53093	0.15587
10.きまりより太いズボンをはく	0.40713	0.58053	0.20605
11.他人の自転車に黙って乗る	0.42263	0.18177	0.72046
12.部分バーマをかける	0.42209	0.48759	0.12233
13.深夜、盛り場をふらつく	0.65119	0.32335	0.26565
14.家で酒を飲む	0.73991	0.35024	-0.02420
15.万引きをする	0.77072	0.02673	-0.34434
16.バイクの無免許運転をする	0.80179	0.19978	0.24878
17.家でタバコを吸う	0.85477	0.19387	0.17821
18.友だちの家で酒を飲む	0.85529	0.24546	0.09157
19.学校でタバコを吸う	0.85819	0.09491	0.25170
因子寄与(率)	46.1	12.1	5.5

(図9) 悪いこと×非行化しているか

→校則違反がカギ



そして、こうした分析を生徒の非行化と関連させてみると、図9のように、「タバコを吸う」のような法にふれる行為は、非行化していない生徒はむろんのこと、非行化しそうな生徒もほとんど悪いことと思っている。また、「他人の傘を黙って使う」行為も属性による差はそれほど大きくなく、悪いことだという気持ちを抱いている。しかし、「かばん

などにシールをはる」の校則違反的な行為は、非行化していない生徒は悪いと思っているが、非行化の程度が進むにつれ、悪いと感じる割合が減少する。

こうした結果を手がかりとすると、法にふれる行為が悪いことはどの生徒も知っているだけに、校則違反を悪いと思うかどうかで非行化の程度が決まるということになる。

2. 非行化の始まり

そうなると、校則を守るかどうかで非行化のレベルがわかるという感じになるが、そこで非行化の始まりをどう思っているかについても尋ねてみた(図10)。

①「非行と無関係」

(始まりと思う割合が3割以下)

1. 長電話をする (8.7%)
2. 忘れ物が多くなる (18.6%)
3. 学校へマンガを持っていく (26.0%)
4. ヘアブラシを学校へ持っていく (23.5%)
5. 教科書を学校へ置いていく (28.6%)

②「非行と多少関係あり」

(始まりと思う割合が3～5割以下)

6. 遅刻が多くなる (30.7%)
7. 清掃をサボる (37.5%)
8. 靴のかかとをつぶしてはく (36.3%)
9. 落書きをする (38.7%)
10. 校章や学年章をつけない (37.5%)

③「非行の始まり」

(始まりと思う割合が5割以上)

11. アメやガムを学校で食べる (55.0%)
12. スカート丈を直す (56.0%)
13. 制服の上着丈を直す (56.3%)

(「非行の始まり」と「とても・かなり思う」割合)

「忘れ物が多くなった」や「学校へマンガを持っていく」くらいでは非行が始まるとは思えないし、「清掃をサボる」や「落書きを

する」のも非行化の始まりといえない。「スカート丈を直す」や「制服の上着丈を直す」など、制服に手を加えるのが非行化の始まりという見方である。

そして、非行化の始まりについてのこうした見方は性差に関係なく、ほとんどの生徒に共有されているし(図11)、学年についても中3になると、中1ほどには制服の手直しが非行化に連なると思わなくなる(図12)。しかし、こうした学年差はそれほど大きくない。したがって「非行化の始まり」について、生徒たちはほぼ共通のイメージを抱いているのがわかる。

そこで、「非行化の始まり」について因子分析を行うと、表3のような数値となる。ここでは、2つの因子をとり出しておきたい。

I軸(校則違反)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 制服の上着丈を直す | (0.898) |
| 2. スカート丈を直す | (0.893) |
| 3. アメやガムを学校で食べる | (0.858) |
| 4. 校章や学年章をつけない | (0.779) |

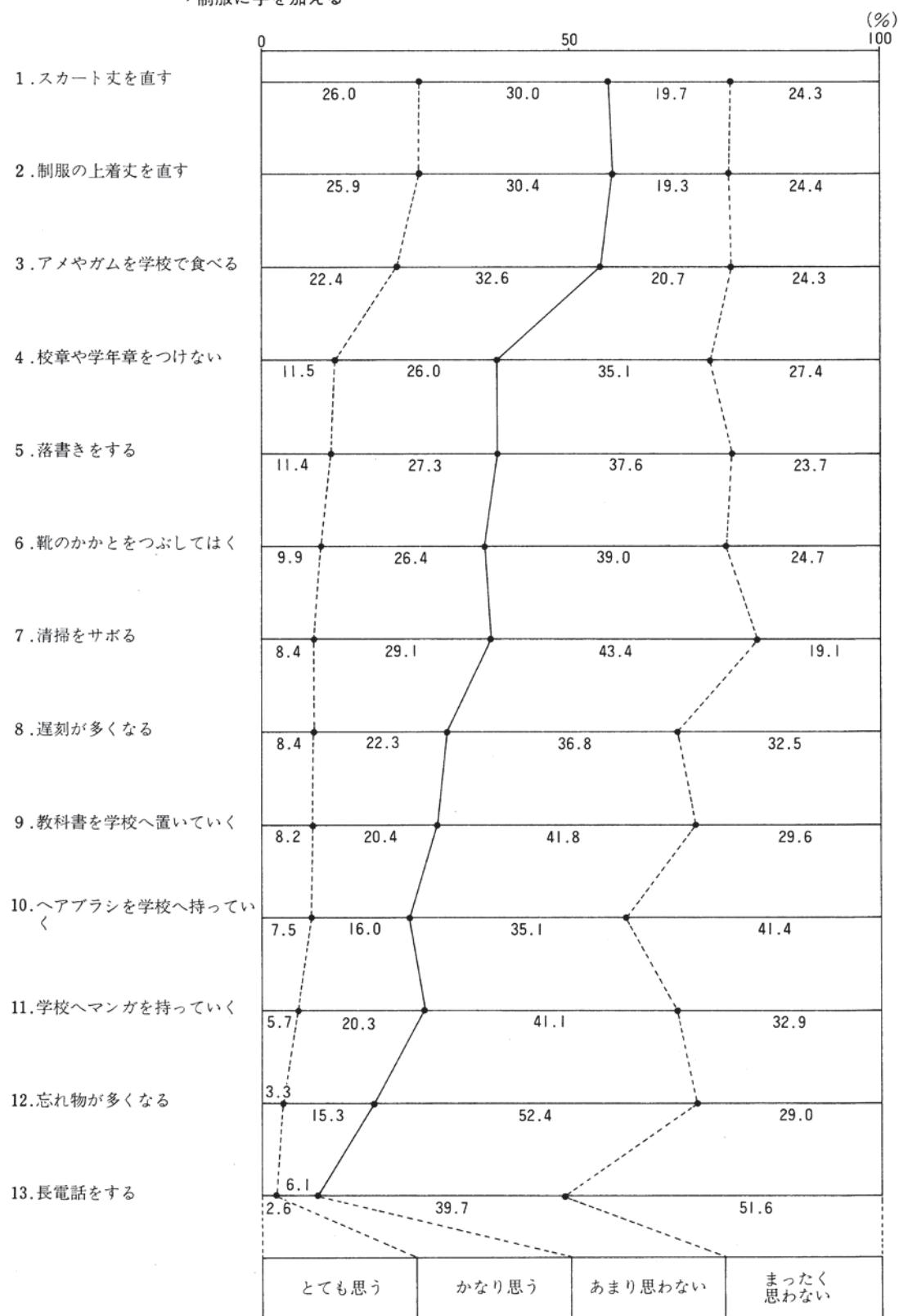
II軸(生活の乱れ)

- | | |
|-------------|---------|
| 1. 忘れ物が多くなる | (0.785) |
| 2. 長電話をする | (0.706) |

したがって、生徒たちは非行の始まりはまず、校則違反となってあらわれ、それに生活の乱れが加わるとみている。

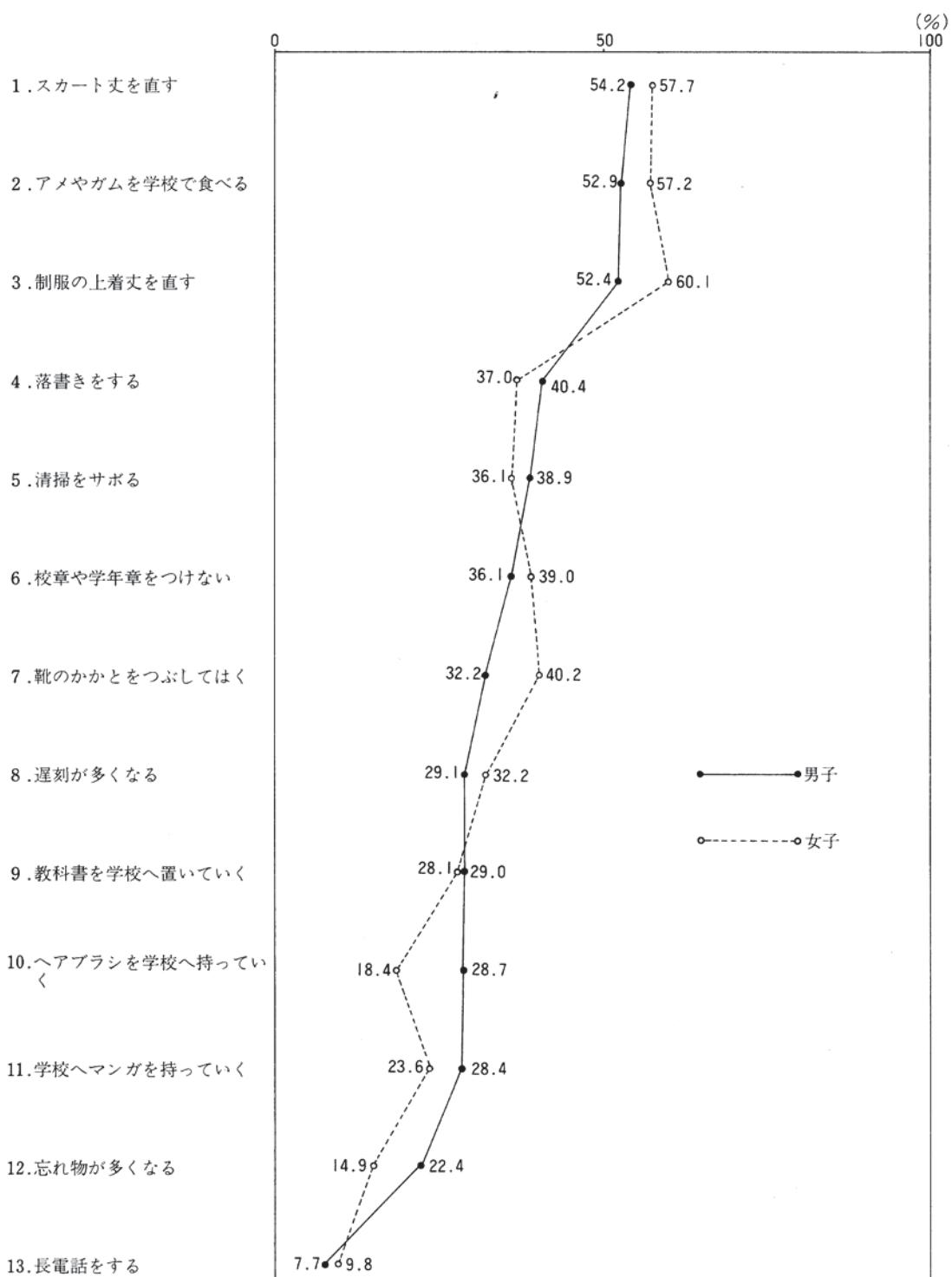
(図10) 非行化の始まり

→ 制服に手を加える



(図11) 非行化の始まり×性

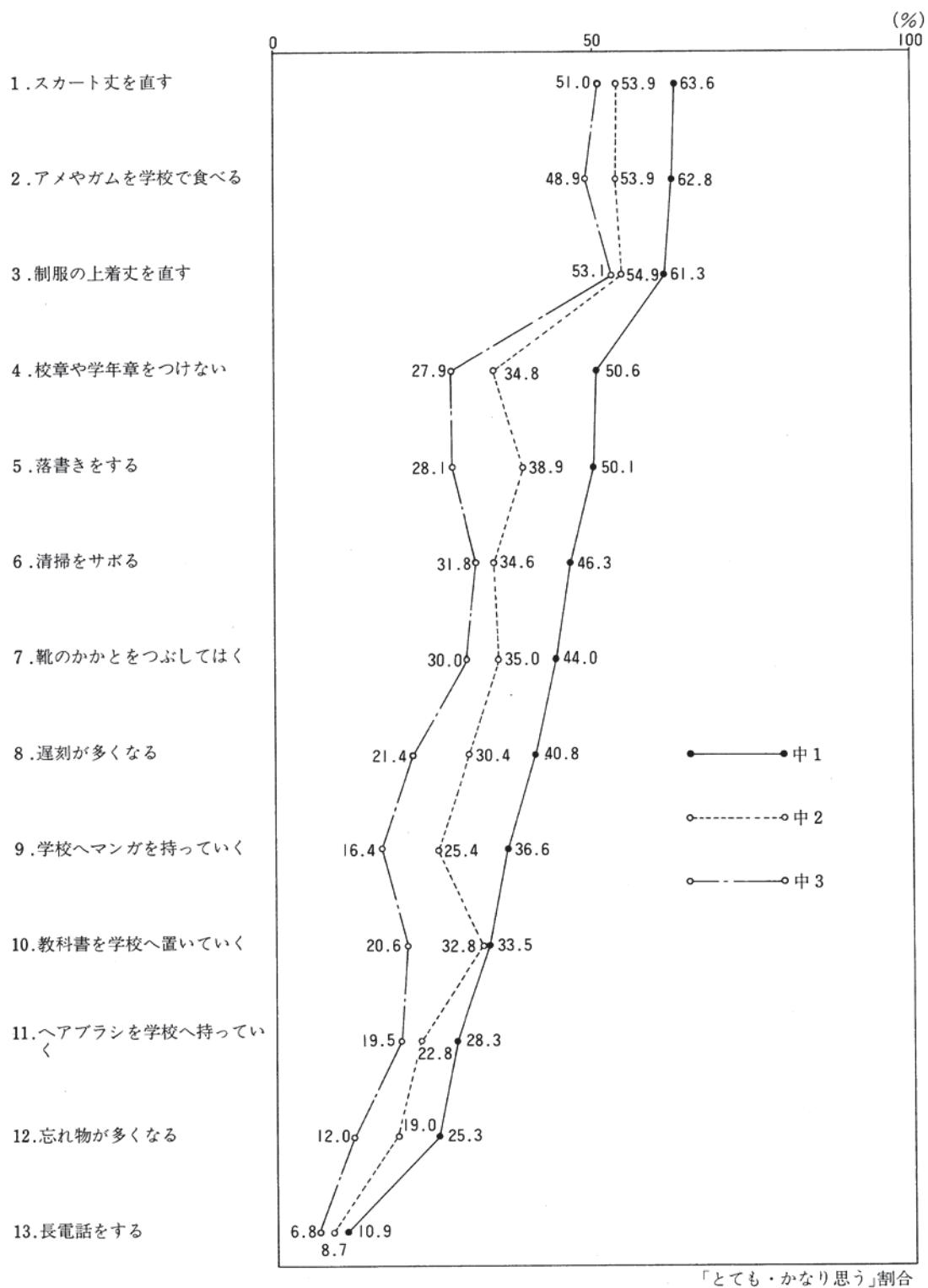
→性差は少ない



「とても・かなり思う」割合

(図12) 非行化の始まり×学年

→ 中1 > 中3



(表3) 非行化の始まり

	I 軸	II 軸
1.長電話をする	-0.0657	0.70616
2.忘れ物が多くなる	0.05981	0.78498
3.学校へマンガを持っていく	0.61728	0.38996
4.ヘアブラシを学校へ持っていく	0.46828	0.37393
5.教科書を学校へ置いていく	0.49303	0.47928
6.遅刻が多くなる	0.60575	0.41731
7.清掃をサボる	0.54924	0.48660
8.靴のかかとをつぶしてはく	0.54138	0.37191
9.落書きをする	0.67114	0.24953
10.校章や学年章をつけない	0.77943	0.15546
11.アメやガムを学校で食べる	0.85825	0.10889
12.スカート丈を直す	0.89286	-0.02878
13.制服の上着丈を直す	0.89797	-0.02547
因子寄与(率)	46.3	11.3

↑
校則違反 ↑
生活の乱れ

第IV章 非行化の可能性



1. 非行化しているか

これまでふれてきたように、生徒たちは非行的な行為へ走っていないし、非行的な行為を悪いと思う感覚を持ちあわせていた。

したがって、生徒たちは非行化していないと自分自身を思っているのであろうが、念のために、自分が非行化する可能性について尋ねてみた。

図13によると、「絶対に」の31.9%を含めて、64.1%は「非行化しない」と思っており、「非行化するかもしれない」と感じている生徒は「ひょっとして」の10.9%を含めて16.3%である。

もちろん、16%と1割を超える生徒が非行化の可能性を感じているのであるから、それ

ほど安心できる数値でないかもしれない。しかし、「ひょっとしたら」が非行化しなければ、非行化は5.4%にとどまる。そうした意味で、適切な対応をすれば、非行化にブレーキがかかるのはたしかなように思われてくる。

なお、非行化と学年との関係はシャープでないが(表4)、学業成績については表5のように、成績が下位層の中に非行化の可能性を認めている者が多い。また進路との関係についても図14(表6)の通り、非行化しないと思っている生徒の中に大学進学を考えている者が多い。それに対し、非行化するかもしれないと思っている生徒に非進学者が多いのが注目をひく。

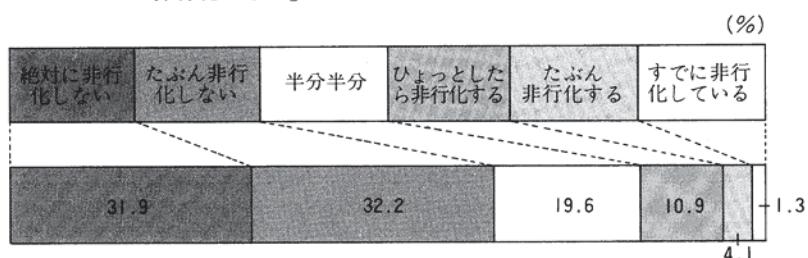
将来に希望を持てると、逸脱行為に走らないといわれる。大学進学を考えている生徒はまじめに勉強し、受験にそなえている。そうなると、非行化などしている余裕はないのかかもしれない。

なお、表7によると、「非行化しない」と思っている生徒は、「先生に乱暴な言葉をつ

かう」や「ビリヤードの店へ出入りする」などを非行していると思っているのに対し、「非行化するかも」と自覚している生徒は、非行的な行為を悪いと思うことが少ない。つまり、非行感覚がまひすることが非行化の第一歩なのかもしれない。

(図13) 非行化する可能性

→「非行化しない」が3分の2



(表4) 非行化するか

→非行化するかもは1割

		非行化しない		半分半分	非行化するかも		すでに非行化
学年	性別	絶対に	たぶん		ひょっとしたら	たぶん	
	中 1	35.7	32.9	19.2	8.2	2.8	1.2
	中 2	28.5	31.5	19.9	13.3	5.8	1.0
中 3		31.2	32.1	19.6	11.3	4.0	1.8
性別	男子	31.7	33.9	18.2	10.0	4.4	1.8
	女子	32.0	30.6	20.9	11.7	3.9	0.9
全 体		31.9	32.2	19.6	10.9	4.1	1.3

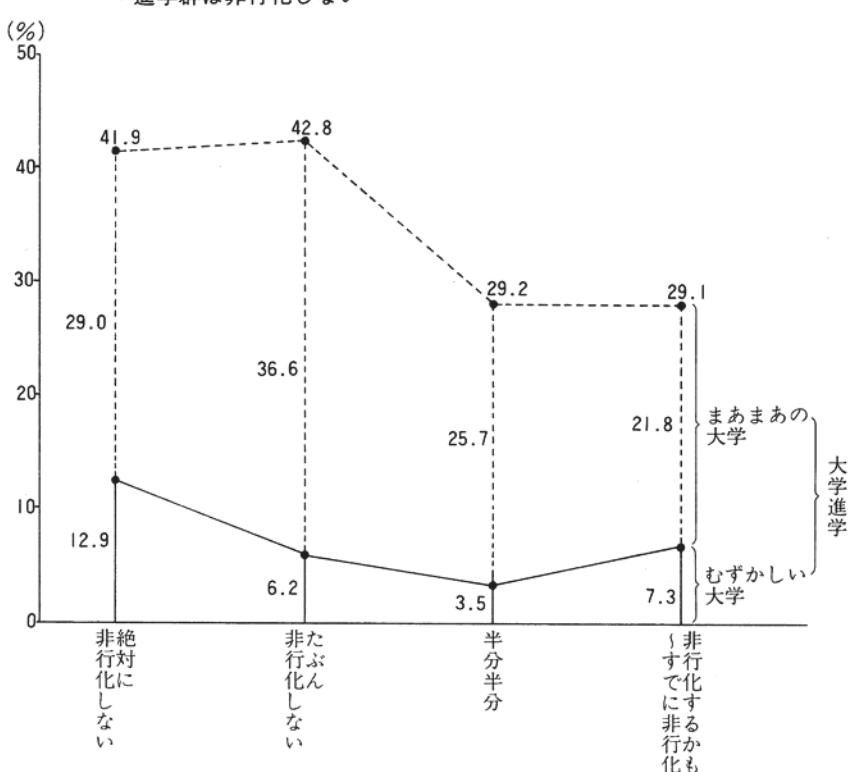
(表5) 非行化×学業成績

→下位層に非行の可能性

	トップ	上位	中の上	中	中の下	下	最下位	(%)
絶対に非行化しない	4.2 15.1	10.9	18.8	32.3	15.7	12.9 18.1	5.2	
たぶん非行化しない	2.2 10.5	8.3	22.0	28.4	21.2	14.4 17.9	3.5	
半分半分	2.1 6.5	4.4	17.3	29.7	22.1	18.4 24.4	6.0	
非行化するかも	3.8 8.4	4.6	17.0	27.9	16.7	16.7 30.0	13.3	

(図14) 進路×非行化

→進学群は非行化しない



(表6) 進路×非行化

	中学まで 就職	高校まで	短大 専門学校	まあまあの 大学	むずかしい 大学	(%)
絶対に非行化しない	1.3 32.5	31.2 30.9	25.6	29.0 36.6	12.9 6.2	
たぶん非行化しない	0.4 30.9	30.5 38.4	26.3 32.4	25.7 21.8	3.5 7.3	41.9 29.2
半分半分	2.1 38.4	36.3 42.6				
非行化するかも～ すでに非行化	4.8 42.6	37.8 33.3	28.3 27.6	29.4 29.1		
全　　体	1.7					8.0

(表7) 非行していると思うか×非行化
→非行化しそうな子に感覚のまひ

		絶対に非行化しない	たぶん非行化しない	半分半分	非行化するかも	(%)
1. マニキュアをぬる	(13.1)	11.0	<u>6.0</u>	7.1		
2. ドライヤーで髪型をきめる	(14.2)	10.8	<u>8.5</u>	10.4		
3. 太いズボン(ポンタン)をはく	(32.3)	23.6	22.1	<u>20.5</u>		
4. パーマをかける	(33.5)	25.6	<u>19.6</u>	24.3		
5. 授業中ぬけ出して、保健室へもぐりこむ	(41.2)	32.3	<u>26.8</u>	30.6		
6. 学校の品物をこわす	(40.6)	30.5	30.6	<u>29.0</u>		
7. ビリヤードの店へ出入りする	(44.2)	34.7	<u>27.4</u>	28.9		
8. 授業中、授業を妨げる	(43.0)	35.2	<u>32.0</u>	33.1		
9. 髪にそりを入れる	(42.1)	37.7	<u>29.6</u>	31.1		
10. 先生に乱暴な言葉をつかう	(47.1)	37.4	<u>36.0</u>	36.8		
11. 夜、喫茶店でおしゃべりをしている	(48.5)	40.2	33.3	<u>32.2</u>		
12. バイクのうしろに乗せてもらつて乗ります	(56.6)	49.7	<u>39.5</u>	41.7		
13. 他人の自転車の部品を盗む	(66.4)	58.3	52.0	<u>51.7</u>		
14. 自分の家の中でならタバコを吸う	(68.6)	58.0	53.2	<u>52.1</u>		
15. 万引きをする	(78.1)	72.5	<u>65.4</u>	68.2		

「すごく非行化している」と思う割合

(○) = 最大値

(—) = 最小値

2. 非行化している生徒

このようにほとんどの生徒は非行化の可能性を否定していたが、1割強程度とはいえ、非行化の可能性を認める生徒も存在していた。そこで、そうした生徒の行動傾向をいくつかのデータから推測してみたい。

図15によれば、全体としてみると、9割前後の生徒はまわりの者から不良っぽいとは思われていない。自分も不良化していないと思っているのだから、他人の目にもそううつるのが当然であろうか。他人からどう思われているかと非行化の程度とをクロスさせてみると、表8のような結果となる。

「絶対に非行化していない」と思っている者の中で、先生や友人から非行化していると見られているのは4%にすぎない。しかし、「非行化しているかもしれない」者の2割前後は、まわりの者から非行化していると思われている。

したがって、非行化とは自分自身の気持ちであると同時に、まわりからそう見られていることでもあるように思う。教育社会学などでラベリング理論がある。非行化しているとレッテルをはられると、そうしたレッテルがその人の行動を規定し、より非行的な行為へ走って、さらに、ラベリングが強固になると

いう理論だが、表8にもそうした傾向が認められる。

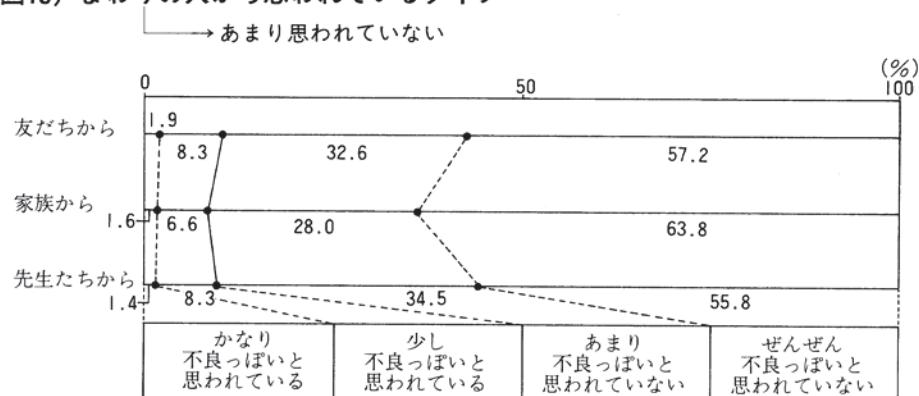
なお、図16～17は、両親や先生に見つからなければ良くないといわれる行為をするかどうかを尋ねたものだが、見つかなくともリップクリームをつけるくらいで、悪いことをする気はないという。

そうした全体的な傾向はともあれ、先生に見つからなければ悪いことをするかもしれないという生徒は、自分自身を非行化していると感じている。ということは、非行化している（と自覚している）生徒は、たしかに非行的な行為をしている可能性が強い（表9、図18）。

また、「先輩から誘われても」ほとんどの生徒は非行的な行為をしないという（図19）。しかし、非行化している（と思っている）生徒は、先輩から誘われたら「マニキュアやリップクリームをつける」や「パチンコに行く」などをするかもしれない者が多い（図20）。

こう見てくると、「非行化しているかも」と思っている生徒は、他人からもそう思われ、そして、誰か見ていないと非行的な行為に走りやすく、その上、先輩に誘われるとついでしまうのであるから、非行に走りやすいと思う。

(図15) まわりの人から思われているタイプ



(表8) 不良っぽいと思われる×非行化

→ 非行化していると不良っぽいと思われている

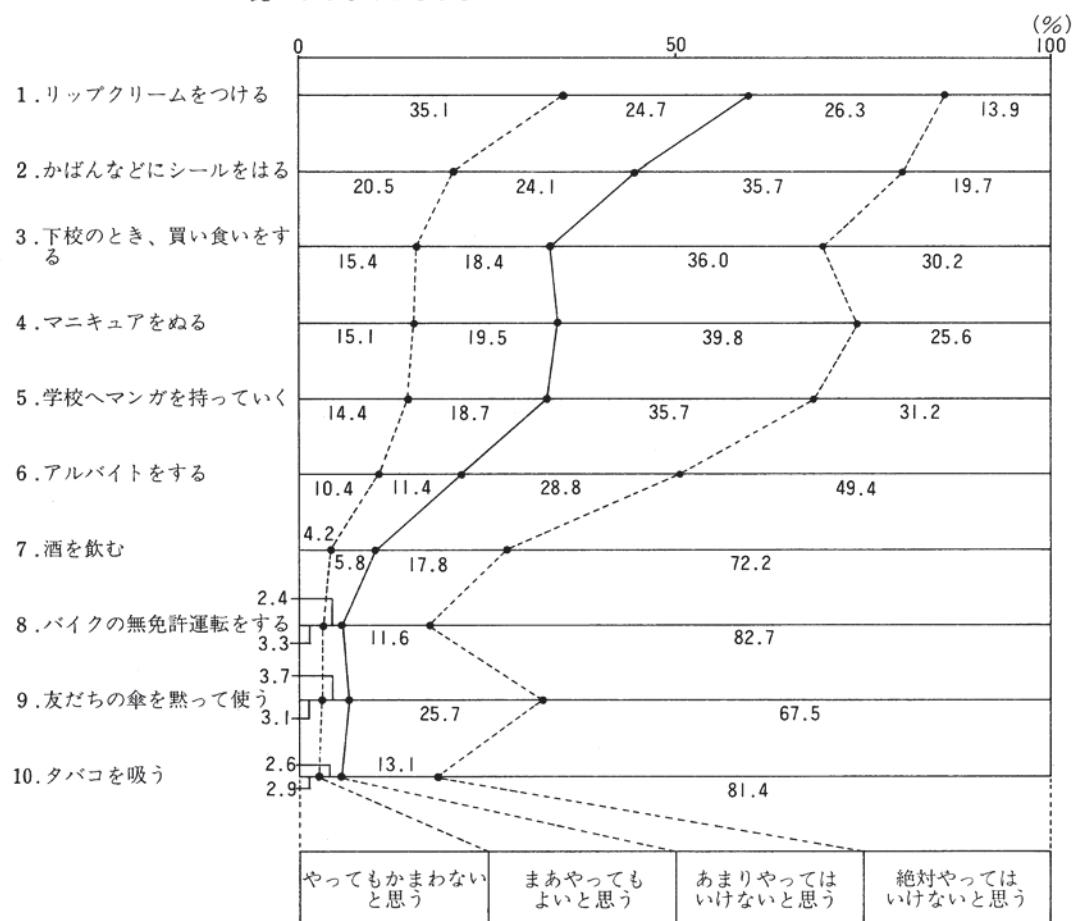
	絶対に 非行化しない	たぶん 非行化しない	半分半分	非行化するかも ~すでに非行化	(%)
先生たちから	3.8	<	6.2	<	14.8 < 25.8
友だちから	4.2	<	4.8	<	16.0 < 19.5
家族から	4.5	<	4.6	<	11.2 < 18.9

「かなり・少し不良っぽいと思われている」割合

○ = 最大値

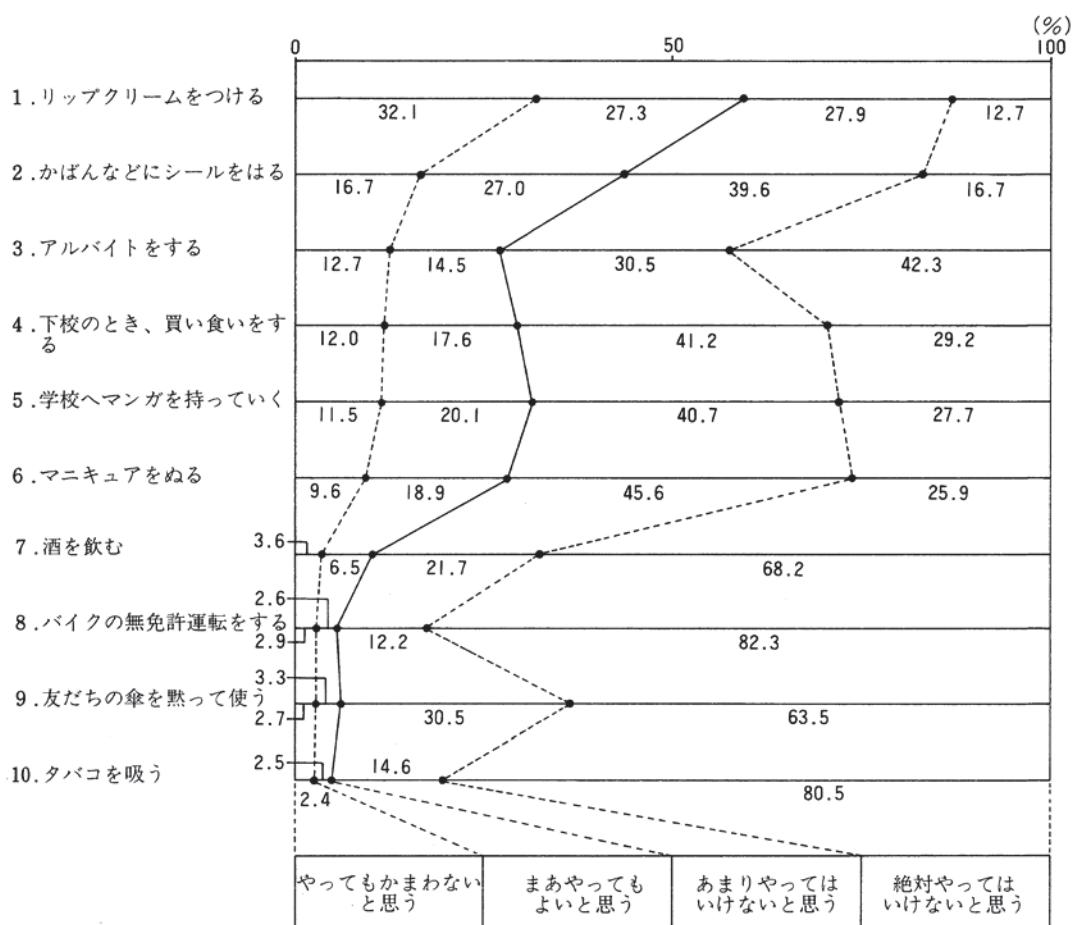
(図16) 両親に見つからなければ

→ 見つからなくともしない



(図17) 先生に見つからなければ

→ リップクリームをつけるくらい



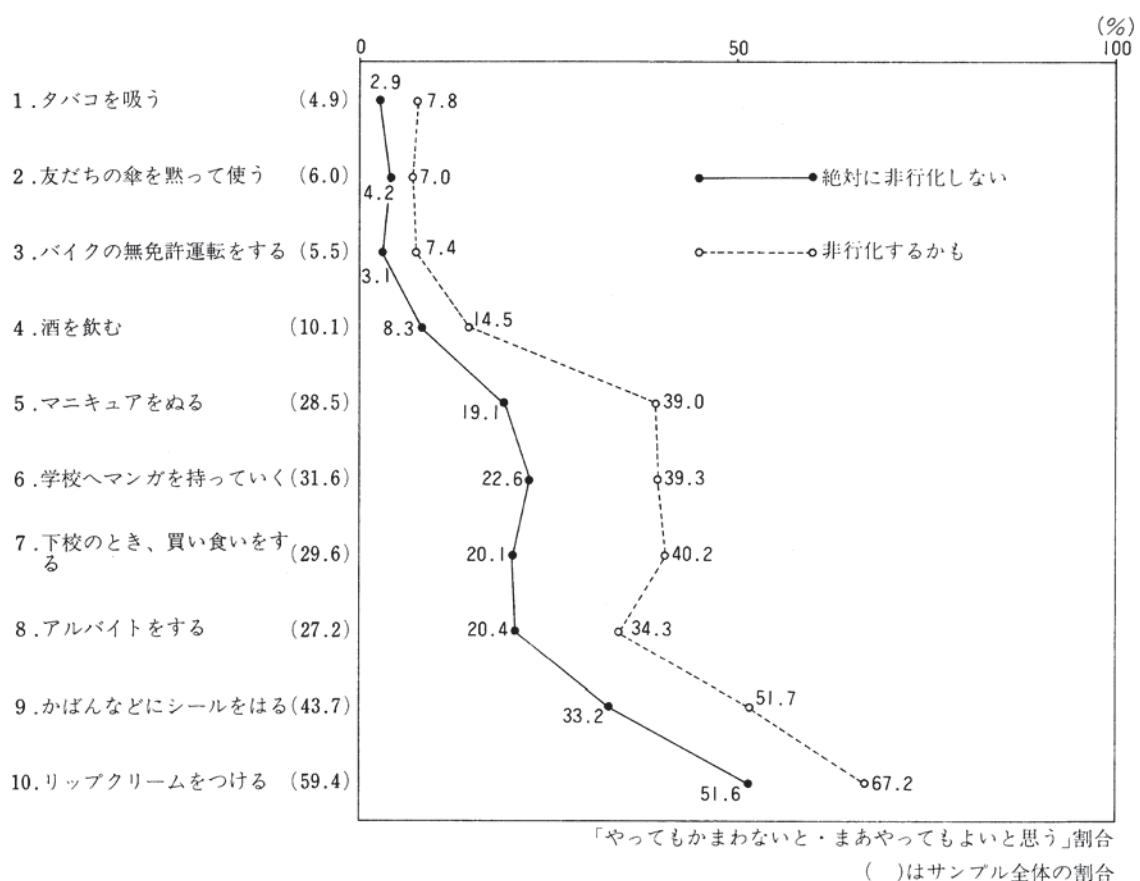
(表9) 先生に見つからなければ×非行化

(%)

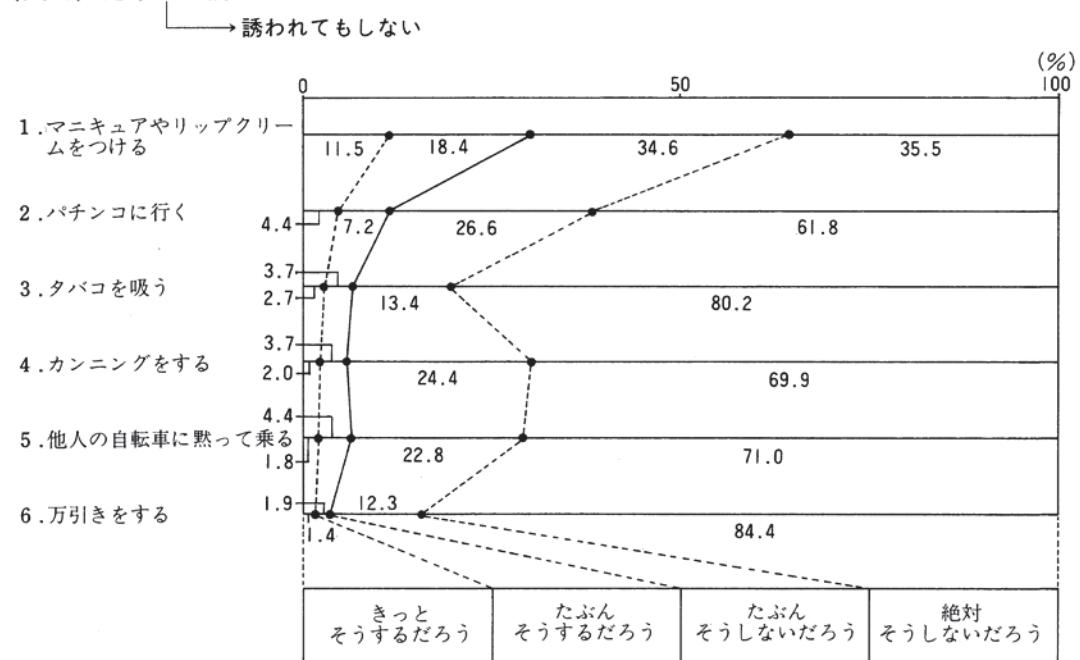
	絶対に非行化しない	たぶん非行化しない	半分半分	非行化するかも
1.タバコを吸う	2.9	2.8	5.3	7.8
2.友だちの傘を黙って使う	4.2	3.4	8.2	7.0
3.バイクの無免許運転をする	3.1	3.4	6.4	7.4
4.酒を飲む	8.3	6.7	11.9	14.5
5.マニキュアをぬる	19.1	23.6	38.4	39.0
6.学校へマンガを持っていく	22.6	27.0	39.8	39.3
7.下校のとき、買い物をする	20.1	25.2	35.3	40.2
8.アルバイトをする	20.4	23.6	33.2	34.3
9.かばんなどにシールをはる	33.2	42.9	53.5	51.7
10.リップクリームをつける	51.6	57.0	67.7	67.2

(図18) 先生に見つからなければ×非行化

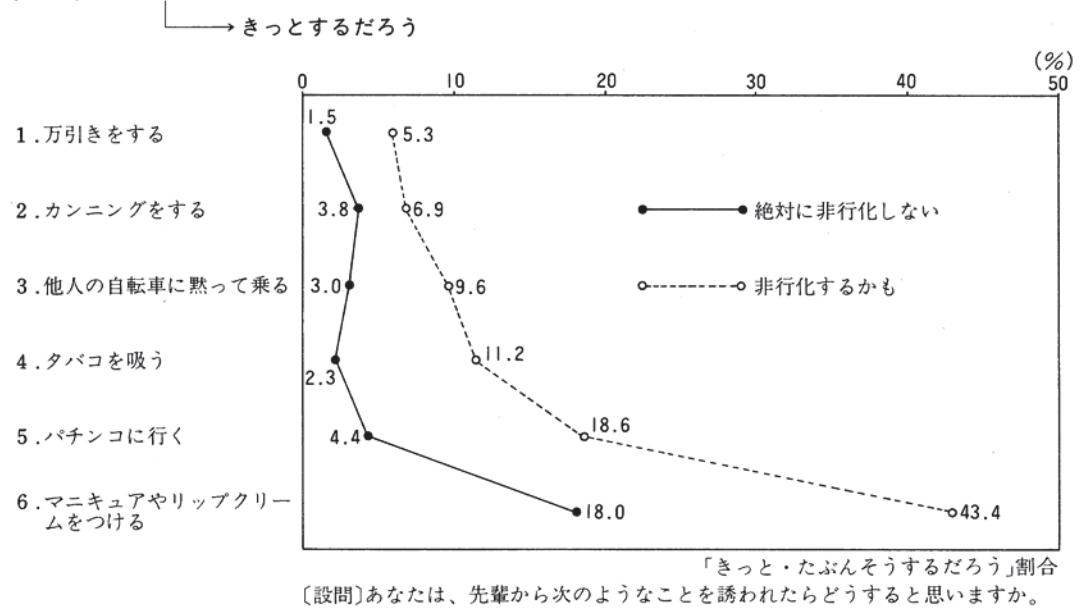
→ 見つからなければしてしまう



(図19) 先輩から誘われたら



(図20) 先輩から誘われたら×非行化



第V章 指導の仕方をめぐって



1. どんな指導をしてほしいか

非行化した生徒に対して指導がなされる。それには、さまざまな形があるといわれる。中学教師たちの話を聞きながら、指導の型を以下の10のようにまとめてみた。

- ① 全員の前で注意される
- ② とり上げられる
- ③ 担任に呼ばれる
- ④ 特別掃除をさせる
- ⑤ 反省文を書く
- ⑥ 担任が家へ来る
- ⑦ 校長から注意する
- ⑧ 親も学校に呼ばれる
- ⑨ 授業に出してもらえない
- ⑩ 特に叱らない

もちろん、同じ叱られ方といっても、やっている行為により納得のできる叱られ方も、納得のできないものもある。法に違反した「タバコを吸う」や「飲酒」で叱られるのならやむをえないが、「服装違反」程度なら大目に見てほしいが、その一例であろう。

そこで、以下の①～⑧のような行為を示して、そうしたことをしたら、学校はどのような指導をするか(現実)、それに対し、生徒としてどんな叱り方をしてほしいか(希望)を尋ねてみた。そして、①～⑧のそれぞれについて、Ⓐ～Ⓑのどの指導の仕方をするか、そして、どれを望むのかの3位までをまとめると、表10のようになる。

- ① ゲームセンターで遊んだ
- ② 自転車の2人乗り
- ③ 服装違反をして登校した
- ④ 連続して何日も遅刻した
- ⑤ 授業中の態度がとても悪かった
- ⑥ 友だちと夜遅くまで遊んだ
- ⑦ 他校の生徒とけんかした
- ⑧ タバコを吸った

ほとんどの行為で、担任に呼ばれ指導されることが多いらしいが、時には、みんなの前で注意されることもあるという(図21)。

それに対し、生徒たちは非行の指導としては担任に呼ばれ注意されるのも仕方がないが、「特に叱らないでほしい」が多い(図22)。生徒としては当然の気持ちであろうが、もちろん「タバコを吸う」などは、親も学校に呼ばれ注意されるのは仕方がないと思っており、「叱らないでほしい」とはいわない(図23)。

(表10) 指導の仕方(A~Jの1項目選択、上位3項目まで)

		A る全員 の前で注意され	B とり上げられる	C 担任に呼ばれる	D 特別掃除をさせる	E 反省文を書く	F 担任が家へ来る	G 校長から注意する	H 親も学校に呼ばれる	I 授業に出してもらえ	J 特に叱らない	(%)
学校の指導	1. ゲームセンターで遊んだ	12.4		(51.6)								11.8
	2. 自転車の2人乗り	19.0		(31.7)								17.7
	3. 服装違反をして登校した	11.8	24.0	(37.3)								
	4. 連続して何日も遅刻した	18.4		(36.1)			11.6					
	5. 授業中の態度がとても悪かった	23.1		(38.3)		8.7						
	6. 友だちと夜遅くまで遊んだ			(41.2)			15.2		18.0			
	7. 他校の生徒とけんかした			(42.2)				15.0	15.3			
	8. タバコを吸った			20.9			12.6		(36.0)			
望ましい指導	1. ゲームセンターで遊んだ				28.2		15.1					(29.4)
	2. 自転車の2人乗り				18.2		14.7					(39.8)
	3. 服装違反をして登校した				(26.7)		13.7					20.1
	4. 連続して何日も遅刻した				(25.7)		15.5					21.5
	5. 授業中の態度がとても悪かった				(27.3)		15.0					18.1
	6. 友だちと夜遅くまで遊んだ				(29.1)				13.1			17.2
	7. 他校の生徒とけんかした				(29.1)		13.2					17.5
	8. タバコを吸った				18.1			11.2		(27.8)		

○=最大値

しかし、「自転車の2人乗り」くらいは「特に叱らないでほしい」という生徒が多い(図24)。

なお、担任についての生徒たちの評価は、

- ① 自分たちのことを心配してくれているのはわかるが(71.5%)
- ② しつけの基準がきびしく(64.1%)
- ③ 親と同じようなことを(55.3%)
- ④ おとなとの都合で叱っている(60.5%)

(「すごく・まあそう思う」割合)

のように(表11)、心配してくれるのはよいが、口うるさいというところらしい。

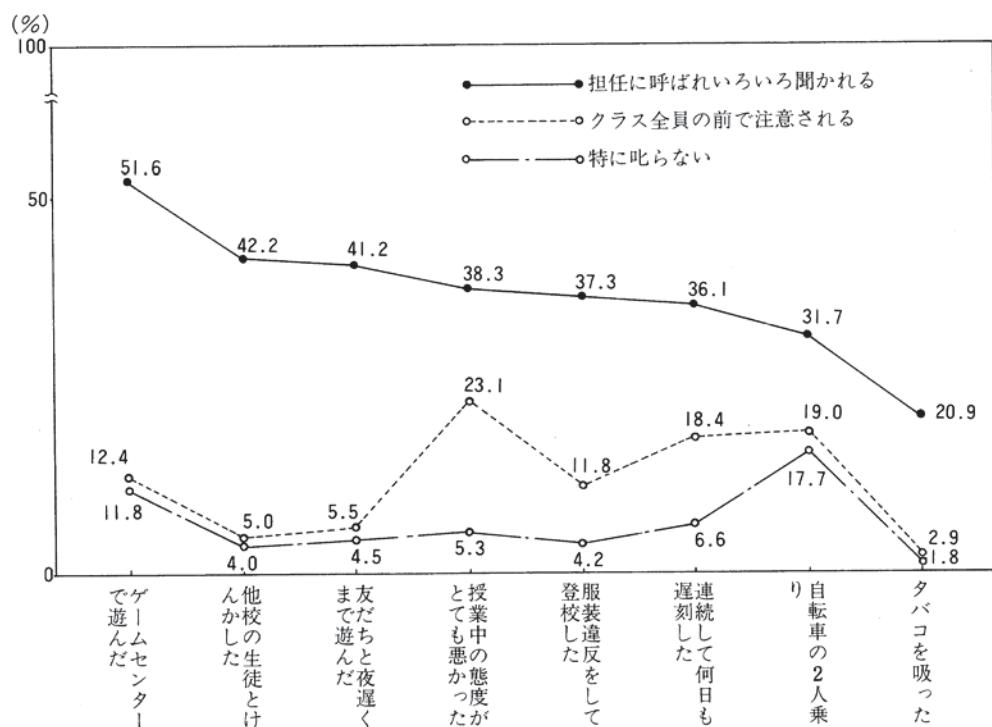
もっとも表12によると、教師の心配を素直に受けとめているのは非行化していないグループ

で、非行化している生徒は、教師は自分勝手な古めかしい基準で文句ばかりを言うという感じで、担任と精神的に断絶している印象を受ける。このように、非行化した生徒は教師に不信を抱くようになるので、こうなると、指導がむずかしくなる。

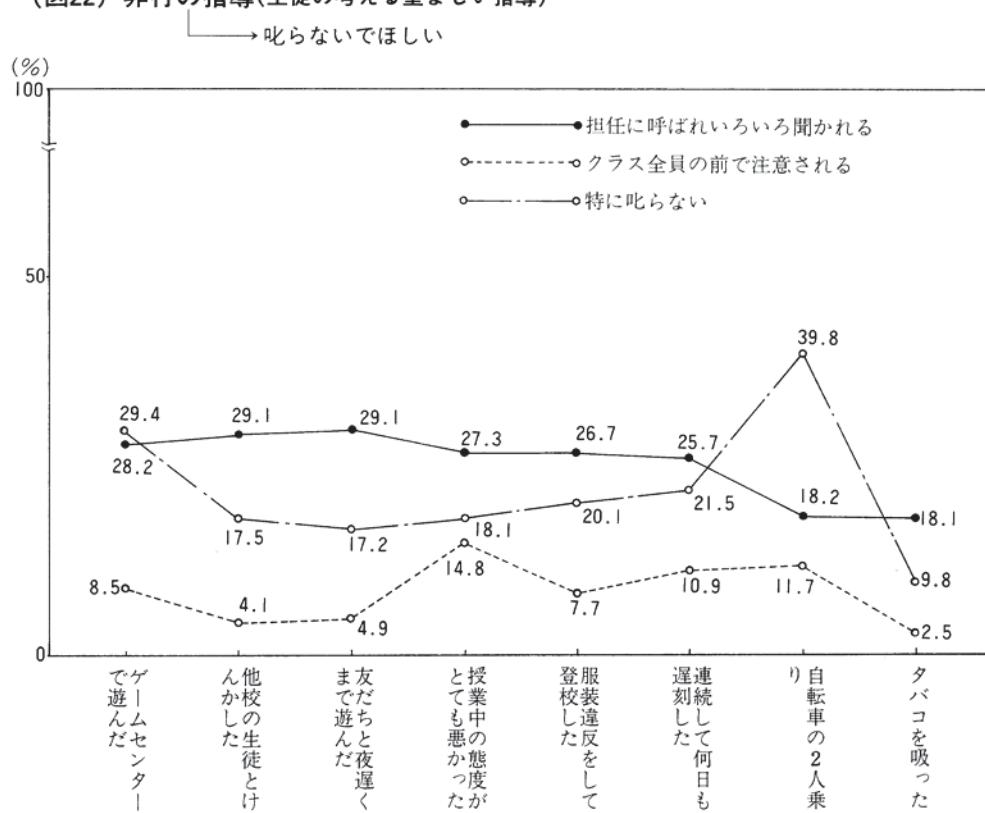
非行というと、家庭のしつけの甘さが問題になることが多い。そして、図25のように、中学生になってまで、口うるさく、いろいろと注意する家庭は少ないようだが、それでもタバコやパーマなどについては「きびしく注意する」家庭が多いという(図26)。

(図21) 非行の指導(生徒の考える学校の指導)

→先生に呼ばれる

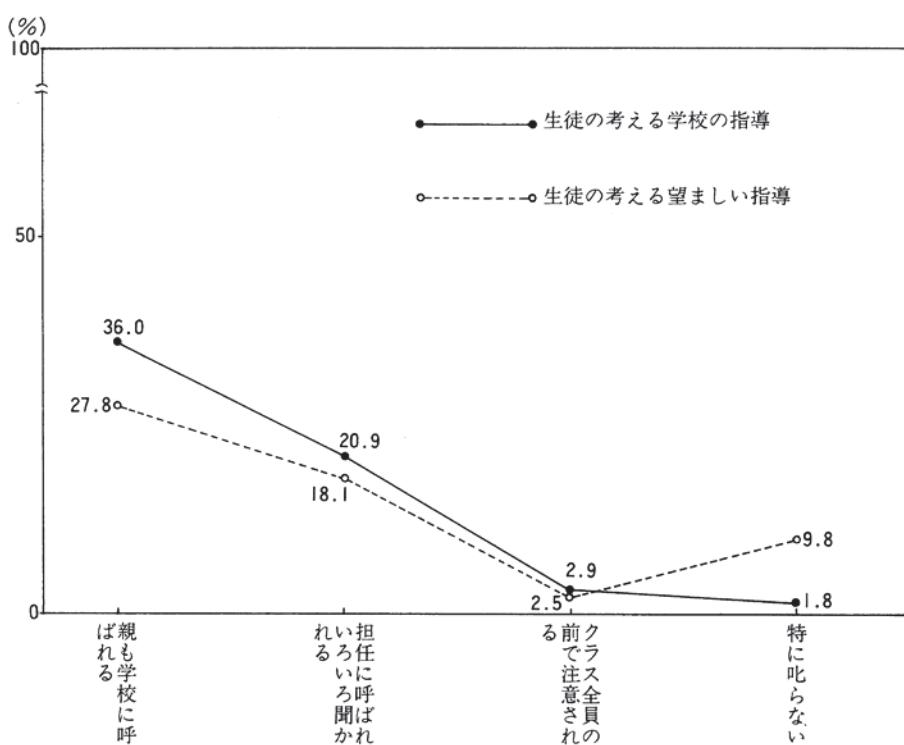


(図22) 非行の指導(生徒の考える望ましい指導)



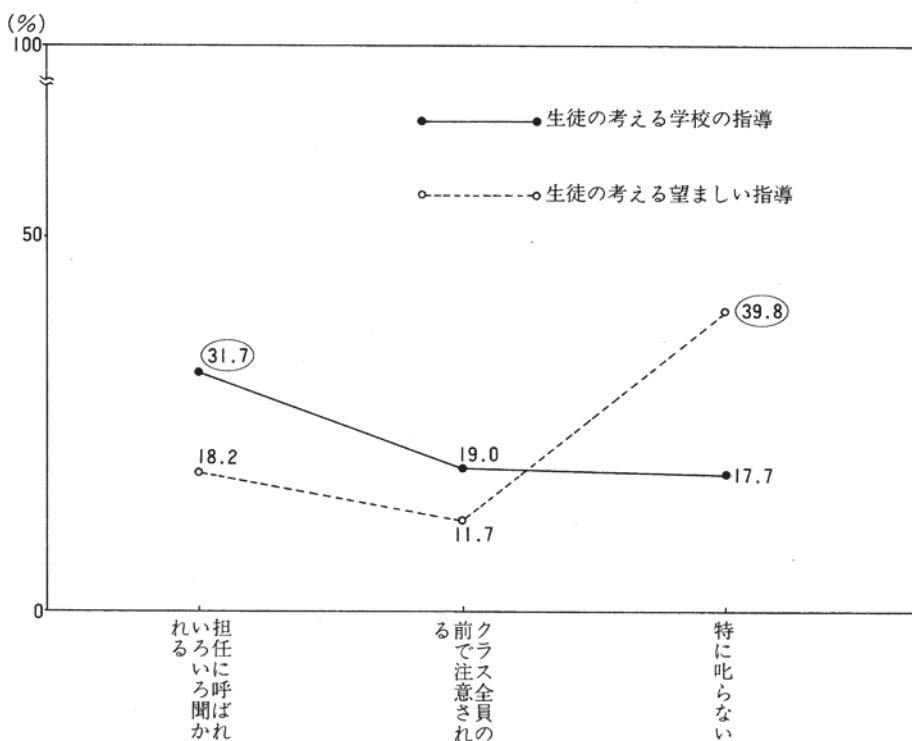
(図23) タバコを吸った

→叱られるのは仕方がない



(図24) 自転車の2人乗りをした

→大目に見てほしい



(表11) 担任への評価

→ 担任も心配しているらしい

	すごく そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	(%)
1. 他人に迷惑をかけなければ先生に関係ない	11.7	20.7	47.6	20.0	
2. 先生は心配しすぎる	14.1	34.9	42.0	9.0	
3. 先生は心配して指導してくれる	18.1	53.4	21.4	7.1	
4. 先生は親と同じことを言う	18.5	36.8	35.6	9.1	
5. 先生は私たちを理解していない	19.4	35.1	38.7	6.8	
6. 先生の考えは古い	19.5	27.0	43.6	9.9	
7. 先生は自分の都合で考えている	21.1	39.4	32.6	6.9	
8. 先生はいけないことの基準がきびしい	23.6	40.5	30.5	5.4	

○ = 最大値

(表12) 担任への評価×非行化

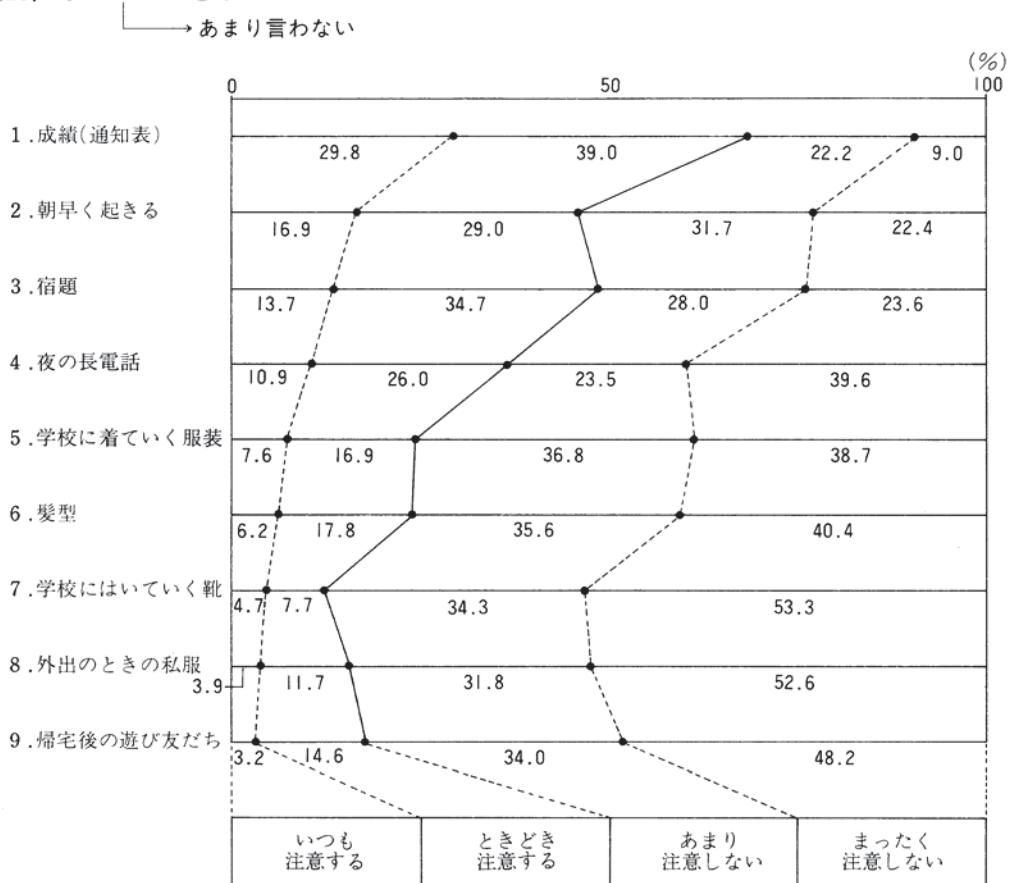
→ 非行すると教師と断絶

	非行化しない		半分半分	非行化する		(%)
	絶対に	たぶん		ひょっとしたら	たぶん	
1. 他人に迷惑をかけなければ先生に関係ない	8.6	5.7	14.8	19.4	37.6	
2. 先生は心配しすぎる	13.8	8.9	17.1	20.2	28.0	
3. 先生は心配して指導してくれる	26.4	16.3	16.5	12.4	6.5	
4. 先生は親と同じことを言う	19.5	13.0	18.2	27.8	31.2	
5. 先生は私たちを理解していない	17.6	11.2	24.9	28.1	44.1	
6. 先生の考えは古い	15.0	12.7	28.2	25.0	46.7	
7. 先生は自分の都合で考えている	18.5	14.3	26.6	36.4	52.7	
8. 先生はいけないことの基準がきびしい	20.4	18.9	24.1	34.0	49.5	

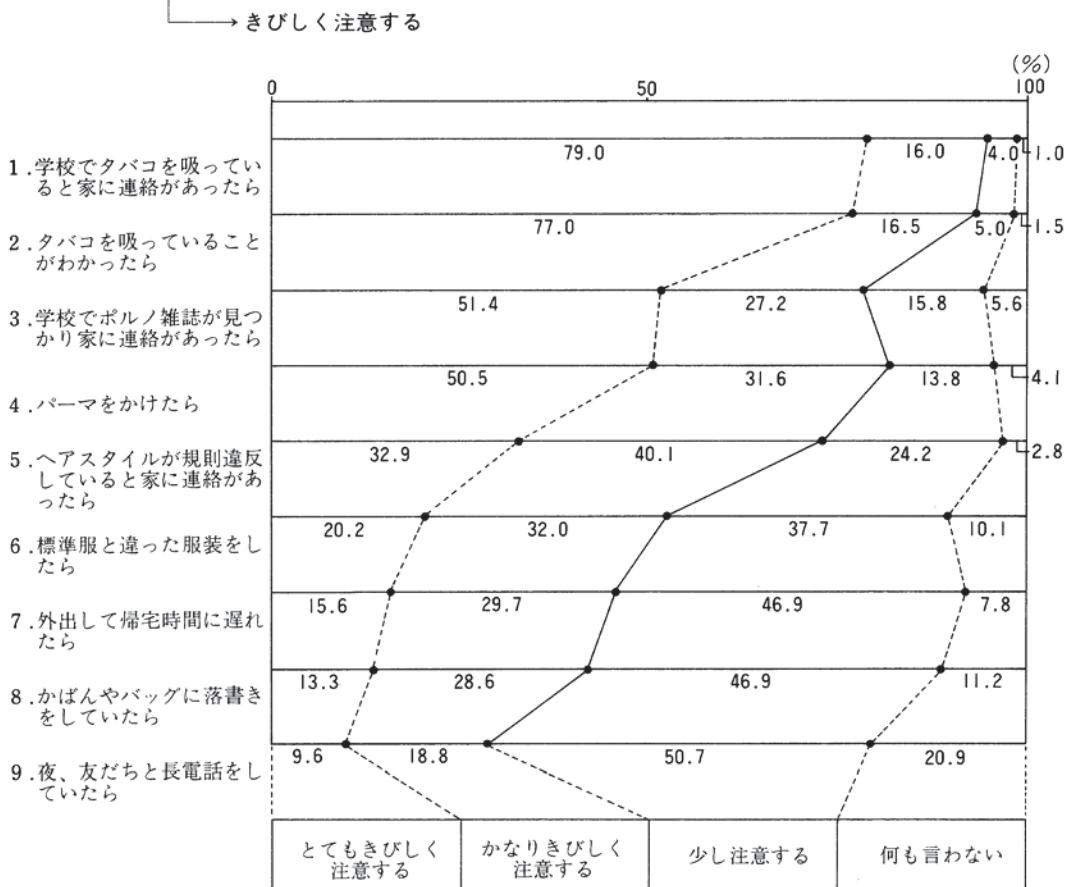
「すごくそう思う」割合

○ = 最大値

(図25) 家の人が注意すること



(図26) 両親はどうするか



2. 校則との関連

これまでふれてきたように、ほとんどの生徒は非行化しないと思っていた。しかし非行化するかもしれないと思っている生徒も少なくなかった。

そこで、まとめにかえて、そうしたタイプが生徒自身の価値観にどう関連するのかを考えてみよう。

図27に、生徒たちの自己像を示したが、これを非行の程度に関連させると、表13のような結果となる。

- ① 非行化していない生徒に目立つ特性
 - 1. 成績がよい
 - 2. よく勉強している
 - 3. 仲間から信頼されている
 - 4. 校則をよく守っている

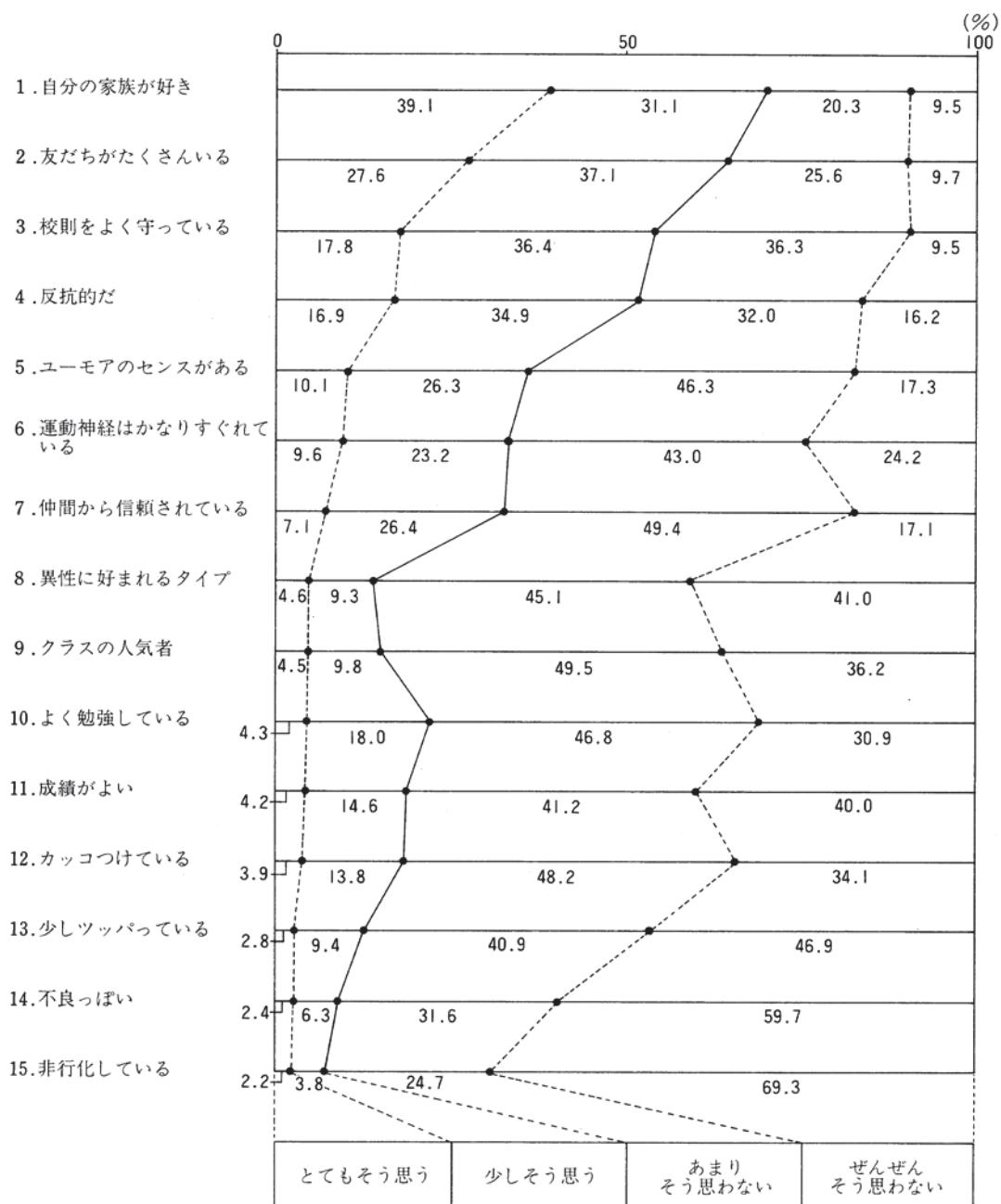
- ② 非行化しそうな生徒に目立つ特性
 - 1. 不良っぽい
 - 2. カッコついている
 - 3. 反抗的

まじめに勉強している子が非行と縁のない子で、非行化しそうなのは勉強を怠けがちなカッコついている子、という評価である。そ

して、この両者を分けているのは校則を守っているかどうかで(図28)、つきつめていうと、校則を守っている生徒は非行化していないが、校則を守らない程度が増すにつれて、非行化の程度が強まるという見方である。校則が非行化のボーダーラインという感じで、「服装

の乱れは非行化の始まり」という教育関係者の言葉が説得力を持って迫ってくる。それだけに、校則のあり方が問題となると思われる所以、あらためて特集の「非行感覚と校則」に目を通してほしい。

(図27) あなたのタイプ



(表13) 自己像×非行化

	(%)					
	絶対に非行化しない		たぶん非行化しない		非行化するかも	
	とても	少し	とても	少し	とても	少し
1. 非行化している	1.3 2.7	1.4	0.8 3.0	2.2	1.6 5.7	4.1
2. 不良っぽい	1.3 4.1	2.8	1.3 3.8	2.5	3.0 13.1	10.1
3. 少しつっぱっている	2.0 8.0	6.0	1.5 8.3	6.8	2.5 15.8	13.3
4. 成績がよい	5.9 22.4	16.5	2.1 19.6	17.5	3.9 14.7	10.8
5. カッコつけてている	3.2 14.0	10.8	2.2 14.6	12.4	5.0 19.7	14.7
6. よく勉強している	6.7 30.4	23.7	3.1 20.7	17.6	2.5 16.8	14.3
7. クラスの人気者	5.5 15.5	10.0	2.5 10.7	8.2	4.9 12.8	7.9
8. 異性に好まれるタイプ	4.5 14.0	9.5	3.1 10.2	7.1	5.3 15.9	10.6
9. 仲間から信頼されている	8.6 37.9	29.3	4.3 30.2	25.9	6.9 30.6	23.7
10. 運動神経はかなりすぐれている	10.2 33.9	23.7	6.8 27.8	21.0	9.6 31.4	21.8
11. ユーモアのセンスがある	12.1 38.2	26.1	6.7 31.2	24.5	8.8 38.1	29.3
12. 反抗的だ	14.3 46.7	32.4	11.3 46.4	35.1	20.0 57.2	37.2
13. 校則をよく守っている	29.3 67.6	38.3	14.2 53.9	39.7	8.3 42.4	34.1
14. 友だちがたくさんいる	31.1 67.8	36.7	23.5 62.1	38.6	26.7 64.4	37.7
15. 自分の家族が好き	52.5 78.7	26.2	36.3 73.2	36.9	29.0 63.0	34.0
	とても ①	そう思う ②	少し ②	そう思う ②	あまり 3	ぜんぜん 4

(図28) 自己像×非行化

→ 非行化しない生徒は校則を守る

